



Microsoft のデータ処理の方針に関する最新の情報は、「[Microsoft のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。ここでは、データにアクセスして制御するために提供される最新のツール、またプライバシーに関する質問がある場合の問い合わせ方法についても確認することができます。

Windows 7 のプライバシーに関する声明

最終更新日時: 2011 年 2 月

ハイライト 声明 補足条項

このページ内

[個人情報](#)

[お客様の選択](#)

[情報の用途](#)

[重要な情報](#)

[お問い合わせ](#)

これは、[Windows 7 のプライバシーに関する声明](#)全文からの抜粋であり、Windows 7 とすべての Windows 7 Service Pack におけるデータの収集と使用の概要について説明します。インターネットとの通信を行う機能に重点を置いており、すべての機能を網羅するものではありません。オンライン、オフラインを問わず他の Microsoft サイト、製品、サービスには適用されません。

[オンラインでのプライバシーとセキュリティ: よく寄せられる質問](#)

[管理者向けの Windows Server 2008 R2 と Windows 7 でのデータ管理について詳しくは、こちらをご覧ください。](#)

個人情報

- Windows 7 の特定の機能では、個人情報を収集または使用することを許可するかどうかを

お客様に確認する場合があります。これらの機能と個人情報の用途については、[Windows 7 のプライバシーに関する声明全文](#)をご覧ください。

- Windows 7 の機能の中には、お客様の許可を得たうえで、インターネットを介して個人情報を共有できるものがあります。
- お客様がソフトウェアの登録を選択した場合は、個人情報の提供が求められます。
- [その他の情報](#)

[ページのトップへ](#)

お客様の選択

- Windows 7 には、Windows 7 の機能によるインターネットを介した情報伝送を制御するためのさまざまな手段が用意されています。
- インターネットに接続する機能の中には、Windows 7 がうまく動作するように、既定で有効になっているものもあります。これらの機能は無効にすることもできます。このような機能について詳しくは、[Windows 7 のプライバシーに関する声明全文](#)をご覧ください。
- [その他の情報](#)

[ページのトップへ](#)

情報の用途

- 収集された情報は、お客様がご利用の機能を有効にするため、またはお客様が要求したサービスを提供するために使用されます。また、Microsoft の製品やサービスの向上を図るためにも使用されます。Microsoft は、サービスの提供に役立てるため、委託している企業に情報を提供する場合があります。情報を必要とする業務を行う企業のみが、これらの情報にアクセスすることができます。このような企業は、情報の機密を保持することを要求されており、他の目的で情報を使用することは禁じられています。
- [その他の情報](#)

[ページのトップへ](#)

重要な情報

- Windows 7 では、ライセンス認証が必要です。ライセンス認証は、ソフトウェアの違法コピーを減らし、Microsoft のお客様が期待するソフトウェア品質を提供することを目的としています。Microsoft は、ライセンス認証によって収集された情報を使用して、お客様を特定したりお客様に連絡したりすることはありません。
- Windows 7 のプライバシーに関する声明
[Windows 7 のプライバシーに関する声明](#) 全文には、Windows 7 の具体的な機能に関する補足情報へのリンクが含まれています。
- お客様のコンピューター、個人情報、および家族をオンラインの脅威から保護する方法に

ついて詳しくは、[オンライン セーフティに関するリソース全文](#)をご覧ください。

[ページのトップへ](#)

お問い合わせ

Microsoft のプライバシーの基準について詳しくは、[Windows 7 のプライバシーに関する声明全文](#)をご覧ください。または、Microsoft の [Web フォーム全文](#)をご覧ください。

[ページのトップへ](#)

最新情報

[Surface Laptop 4](#)

[Surface Laptop Go](#)

[Surface Go 2](#)

[Surface Pro X](#)

[Surface Book 3](#)

[Microsoft 365](#)

[Windows 10 アプリ](#)

[HoloLens 2](#)

[Microsoft Store](#)

[アカウント プロファイル](#)

[ダウンロード センター](#)

[Microsoft Store サポート](#)

[返品・返金](#)

[ご注文履歴](#)

[Microsoft Store をお選びいただく理由](#)

教育

[教育機関向けの Microsoft 製品](#)

[学生向け Office](#)

[Office 365 の教育機関向け製品](#)

[教育機関向けの Microsoft Azure](#)

エンタープライズ

[Azure](#)

[Microsoft AppSource](#)

[自動車](#)

[政府・公共機関](#)

開発者

[Microsoft Visual Studio](#)

[Windows デベロッパー センター](#)

[デベロッパー センター](#)

[Microsoft 開発者プログラム](#)

会社

[採用情報](#)

[会社のニュース](#)

[マイクロソフトにおけるプライバシー](#)

[投資家](#)

医療機関

チャンネル 9

アクセシビリティ

製造

Office デベロッパー センター

セキュリティ

ファイナンス サービス

小売

Microsoft [に問い合わせ](#)

[プライバシー](#)

[使用条件](#)

[商標](#)

[広告について](#)

© Microsoft 2021



Microsoft のデータ処理の方針に関する最新の情報は、「[Microsoft のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。ここでは、データにアクセスして制御するために提供される最新のツール、またプライバシーに関する質問がある場合の問い合わせ方法についても確認することができます。

Windows 7 のプライバシーに関する声明

最終更新日時: 2011 年 2 月

ハイライト **声明** 補足条項

このページ内

[ユーザーの情報の収集と使用](#)

[ユーザーのコンピューターに関する情報の収集と使用](#)

[情報のセキュリティ](#)

[プライバシーに関する声明の変更](#)

[質問の連絡先](#)

この声明は、Windows 7 およびすべての Windows 7 Service Packを対象としています。Windows に関するソフトウェアやサービス、およびWindows 以前のリリースについての詳細は、このページの横にあるプライバシーに関する声明の一覧を参照してください。

特定の機能に関する詳細については、[Windows 7 Privacy Supplement](#)を参照してください。

[プライバシーに関する声明の重要事項を表示する](#)

Microsoft では、パーソナル コンピューティングにユーザーの求めるパフォーマンス、パワー、利便性をもたらす製品を提供する一方で、ユーザーの個人情報の保護に努めています。

この開示情報はインターネットとの通信を行う機能に焦点を当てており、包括的な一覧となるものではありません。これは、他のオンラインまたはオフラインの Microsoft サイト、製品、またはサービスには適用されません。

[ユーザーの情報の収集と使用](#)

お客様から収集する個人情報は、Microsoft およびその関連会社ならびに提携企業によって、使用する機能の有効化、サービスの提供、またはお客様が要求あるいは承認したトランザクションの実行に使用されます。この情報は、Microsoft 製品およびサービスの分析および向上に使用される場合もあります。

この声明に記載されていない限り、ユーザーの提供した個人情報は、ユーザーの同意を得ることなくサードパーティへ伝えられることはありません。Microsoft は、サービスの統計分析の実施など、当社の代理として限定的なサービスを提供するため、他の企業と契約する場合があります。これらの企業に対してはサービスの提供に必要な個人情報のみが提供され、各企業は他の目的での情報の使用が禁止されます。

Microsoft では、次の目的で、ユーザーとの連絡の内容を含め、ユーザーに関する情報へアクセスまたは開示する場合があります。(a) 法律に準拠するため、法律上の要請に応じるため、または法的な処理を行うため。(b) ユーザーのソフトウェア使用を管理する使用規約またはポリシーの施行を含め、Microsoft または当社の顧客の権利または所有権を保護するため。または (c) Microsoft の従業員、顧客または一般の人々の個人的な安全を保護するために、このようなアクセスまたは情報開示が必要であると確実に信じられる場合。

Windows 7 によって Microsoft が収集した情報または Microsoft に送信された情報は、Microsoft およびその関連会社ならびに提携企業、またはサービス プロバイダーが設備を管理している米国またはその他の国あるいは地域で、格納および処理される場合があります。Microsoft は、欧州連合、欧州経済地域、およびスイスのデータの収集、使用、および保有に関して、米国商務省が示したセーフハーバー フレームワークに従います。

[ページのトップへ](#)

ユーザーのコンピューターに関する情報の収集と使用

インターネットが有効化されている機能が搭載されているソフトウェアをお使いの場合、アクセスしている Web サイトまたは使用中のオンライン サービスへ、ユーザーのコンピューターに関する情報（「標準コンピューター情報」）が送信されます。標準的なコ

ンピューター情報には一般的に、コンピューターの IP アドレス、オペレーティング システムのバージョン、ブラウザのバージョン、および地域や言語の設定などが含まれます。デバイスの製造元、名前とバージョンを示すハードウェア ID が含まれる場合もあります。Microsoft へ特別な機能またはサービスが情報を送信する場合、標準コンピューター情報も送信されることになります。

このページの横に一覧表示されているプライバシーに関する声明の補助条項にある、各 Windows 7 機能に対応するプライバシーの詳細には、収集される追加情報の内容と、使用方法が記載されています。

管理者は、[グループ ポリシー] を使用して、次の機能の設定の多くを修正することができます。詳細については、「[Windows 7 と Windows Server 2008 R2 の使い方:インターネットとの通信を管理する](#)」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

情報のセキュリティ

Microsoft では、情報のセキュリティの保護に努めています。Microsoft は、無許可のアクセス、使用、または情報開示から情報を保護するのに役立つよう、さまざまなセキュリティ テクノロジーや手順を使用しています。たとえば、提供を受けた情報は、アクセスが制限され、管理された施設内に置かれたコンピューター システムに保管されます。さらに、インターネットを通じて機密性の高い情報 (クレジットカード番号やパスワードなど) を転送する場合は、SSL (Secure Socket Layer) プロトコルなどの暗号化を使用して保護しています。

[ページのトップへ](#)

プライバシーに関する声明の変更

Microsoft は、当社の製品、サービスおよびエンド ユーザーからのフィードバックへの変更を反映するために、プライバシーに関する声明を更新することがあります。更新を掲載した場合、本声明の上部にある、「最終更新日」の日付を改訂します。この声明の内容の変更または Microsoft の個人情報取り扱い方法に対する変更があった場合、実施前に係る変更を通知するか、直接ユーザーに

お知らせいたします。Microsoft では、この声明をお客様が定期的に確認して、当社が情報をどう保護しているか知ることをお勧めします。

[ページのトップへ](#)

質問の連絡先

Microsoft では、このプライバシーに関する声明についてのお客様のご意見をお待ちしております。この声明に関してご質問がある場合、または Microsoft がこの声明を遵守していないと思われる場合、[こちら](#)を参照してください。

Microsoft Privacy
Microsoft Corporation
One Microsoft Way
Redmond, Washington 98052
USA

[ページのトップへ](#)

最新情報

[Surface Laptop 4](#)

[Surface Laptop Go](#)

[Surface Go 2](#)

[Surface Pro X](#)

[Surface Book 3](#)

[Microsoft 365](#)

[Windows 10 アプリ](#)

[HoloLens 2](#)

[Microsoft Store](#)

[アカウント プロファイル](#)

[ダウンロード センター](#)

[Microsoft Store サポート](#)

[返品・返金](#)

[ご注文履歴](#)

[Microsoft Store をお選びいただく理由](#)

教育

[教育機関向けの Microsoft 製品](#)

[学生向け Office](#)

[Office 365 の教育機関向け製品](#)

[教育機関向けの Microsoft Azure](#)

[エンタープライズ](#)

[開発者](#)

[会社](#)

[Azure](#)

[Microsoft Visual Studio](#)

[採用情報](#)

[Microsoft AppSource](#)

[Windows デベロッパー センター](#)

[会社のニュース](#)

[自動車](#)

[デベロッパー センター](#)

[マイクロソフトにおけるプライバシー](#)

[政府・公共機関](#)

[Microsoft 開発者プログラム](#)

[投資家](#)

[医療機関](#)

[チャンネル 9](#)

[アクセシビリティ](#)

[製造](#)

[Office デベロッパー センター](#)

[セキュリティ](#)

[ファイナンス サービス](#)

[小売](#)

[Microsoft に問い合わせ](#)

[プライバシー](#)

[使用条件](#)

[商標](#)

[広告について](#)

© Microsoft 2021



Microsoft のデータ処理の方針に関する最新の情報は、「[Microsoft のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。ここでは、データにアクセスして制御するために提供される最新のツール、またプライバシーに関する質問がある場合の問い合わせ方法についても確認することができます。

Windows 7 のプライバシーに関する声明

最終更新日時: 2011 年 2 月

ハイライト 声明 **補足条項**

このページ内	このページは Windows 7 のプライバシーに関する声明 の補足条項です。特別な機能またはサービスに対するデータ収集および使用方法についての詳細は、 Windows 7 プライバシーに関する声明 および適用される補足条項を確認してください。
ライセンス認証	
監査	
BitLocker ドライブ暗号化	ライセンス認証
デバイス情報の取得	この機能の説明
デバイス マネージャー	ライセンス認証は、ソフトウェアの偽造を減少させ、マイクロソフト のお客様が期待するソフトウェアの品質を享受できるのに役立ちます。ソフトウェアのライセンスが認証されると、ソフトウェアがインストールされたコンピューターに特定のプロダクト キーが関連付けられます。このように関連付けることで、プロダクト キーが使用されて、複数のコンピューター上でソフトウェアの同一のコピーが認証されるのを防ぎます。コンピューターのコンポーネントまたはソフトウェアへの変更の一部では、ソフトウェアのライセンス認証の手続きを再度行うことが必要になる場合があります。
動的更新	
コンピューターの簡単操作センター	
イベント ビューアー	
FAX	
ガジェット	収集、処理、または転送される情報

ゲーム フォルダー	ライセンス認証では、次のようなプロダクト キー情報が マイクロソフト へ送信されます。
手書き認識 (Tablet PC でのみ利用可能)	<ul style="list-style-type: none">• マイクロソフト 製品コード (ライセンス認証を行う Windows 7 製品を識別する 5 桁のコード)。
ホームグループ	<ul style="list-style-type: none">• Windows 7 製品の入手場所を識別するチャンネル ID またはサイト コード。例えば、製品が小売店で販売されたものかどうか、正規のコピーかどうか、ボリューム ライセンス プログラムの対象製品なのか、コンピューター メーカーによって事前インストールされたものなのか、などを識別します。
入力方式エディター (IME)	<ul style="list-style-type: none">• インストールの日付。
インストール向上プログラム	<ul style="list-style-type: none">• プロダクト キー情報が変更されていないことを確認するのに役立つ情報。
インターネット印刷	
位置センサーとその他のセンサー	
マイクロソフト エラー報告サービス	サブスクリプション サービスで Windows 7 ライセンスを取得されている場合は、サブスクリプションの動作についての情報も送信されます。
ネットワーク認識	
プリントの注文	また、ライセンス認証では、コンピューターのハードウェア設定によって生成された番号が マイクロソフト へ送信されます。この番号は、個人情報またはソフトウェアに関する情報を表しません。コンピューターの製造元またはモデルを特定するために使用することはできず、ユーザーのコンピューターに関する追加情報を特定するために計算することもできません。標準的なコンピューター情報と一緒に、追加の言語設定がいくつか収集されます。
保護者による制限	
プラグ アンド プレイ	
プラグ アンド プレイの拡張機能	
プログラム互換性アシスタント	情報の使用 マイクロソフト は、ユーザーがライセンス供与されたソフトウェアのコピーを所有しており、特定のサポート プログラムを享受する権限を持っていることを確認するためにこの情報を使用します。また、この情報は統計的な分析をまとめるためにも使われます。マイクロソフト は、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために情報を使用することはありません。
プログラム プロパティの [互換性] タブ	
プロパティ	
リモート アクセス接続	選択および制御 ライセンス認証は必須であり、あらかじめ定められた猶予期間中に完了する必要があります。ソフトウェアのライセンス認証を行わない場合、猶予期間の終了後には使用できません。ソフトウェアの有効なライセンスをお持ちでない場合は、Windows を起動す
RemoteApp とデスクトップ接続	

リモート デスクトップ接続	ることができません。
Rights Management Services (RMS) クライアント	ページのトップへ 監査
Teredo テクノロジ	この機能の説明
トラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) サービス	監査では、管理者は Windows を設定し、イベント ビューアーや他のプログラムを使って読むことのできるセキュリティ ログにシステムの動作を記録することができます。このログを使用すると、管理者はコンピューターまたはコンピューター上のリソースへの不正なアクセスを検知できるようになります。たとえば、誰かがコンピューターへログオンしたり、新しいユーザー アカウントを作成したり、セキュリティ ポリシーを変更したり、ドキュメントを開いたりしたかどうかを知ることができます。また、このログは問題のトラブルシューティングにも役立ちます。
ルート証明書の更新	
UPnP™ テクノロジ	
Windows Anytime Upgrade	
Windows Customer Experience Improvement Program (CEIP)	収集、処理、または転送される情報 管理者は収集される情報の内容、保持される期間、および第三者へ伝送されるかどうかを決定します。情報には、ユーザー名やファイル名などの個人情報が含まれる場合があります。詳細については、管理者にお問い合わせください。
Windows Defender	情報の使用 管理者は、監査情報の使用方法も決定します。一般に、セキュリティ ログは監査人や管理者が、コンピューターの動作の追跡、またはコンピューターやコンピューター上のリソースへの不正なアクセスを特定するために使われます。
Windows File Association	
Windows Help	
ReadyBoost	選択および制御 管理者は、この機能を有効にするのかどうか、およびユーザーへの通知方法を決定します。セキュリティ ログは、管理者が特に許可しない限り、他のユーザーが閲覧することはできません。管理ツールの [ローカル セキュリティ ポリシー] でコンピューターの [監査] を設定できます。
Windows Remote Assistance	
Windows Speech Recognition	
Windows Time Service	ページのトップへ
Windows Troubleshooting	BitLocker ドライブ暗号化 この機能の説明 お使いのバージョンの Windows 7 に BitLocker が含まれている場合、オフラインのソフトウェア攻撃を防ぎ、データを保護しま

す。サポートされているハード ドライブまたはリムーバブル ドライブは、BitLocker で暗号化することができます。ドライブ上で BitLocker が有効化されている場合、ドライブのコンテンツ全体が完全に暗号化されます。

収集、処理、または転送される情報

BitLocker が有効になっている場合、メモリ内の暗号化キーは、保護されたドライブからの読み取りや、ドライブへの書き込みの度に、継続的にデータの暗号化と解読を行います。BitLocker の設定時に、リカバリ キーを印刷したり、ネットワーク上の場所に保存したり、USB フラッシュ ドライブ (リムーバブル ドライブを除く) へリカバリ キーを保存するよう選択できます。

スマート カードを使用してドライブを暗号化する場合、そのスマート カード用の公開キーと一意の識別子は、暗号化されない形式でドライブ上に保存されます。この情報は、最初にスマート カードの暗号化証明書を作成するのに使用された、証明機関の特定に使用されることができます。

お使いのコンピューターにトラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) セキュリティ ハードウェアのバージョン 1.2 以上が搭載されている場合、BitLocker は TPM を使用して Windows がインストールされているドライブのハードウェアを強化したデータ保護を提供します。詳細については、下記のトラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) サービスを参照してください。TPM が搭載されているコンピューターでは、暗証番号 (PIN) を設定し、暗号化されたデータをさらに保護することもできます。BitLocker では、この TPM ベースの PIN を、ドライブ上にハッシュおよび暗号化された形式で保存します。

情報の使用

暗号化キーおよびグローバル一意識別子 (GUID) は、コンピューター メモリ内に保存され、BitLocker の操作をサポートします。BitLocker リカバリ情報を使用すると、ハードウェアに障害があったり、その他の問題が発生した場合に保護されたデータへのアクセスができるようになります。このリカバリ情報では、BitLocker は承認されているユーザーと不正なユーザーを見分けます。BitLocker が収集した情報は マイクロソフト へは送信されません。

選択および制御

BitLocker は既定でオフになっています。コントロール パネルの

[BitLocker ドライブ暗号化] でいつでもリムーバブル ドライブに対して BitLocker をオンまたはオフにすることができます。管理者は、ハード ドライブを含め、すべてのドライブに対して BitLocker のオン/オフを切り替えることができます。

[ページのトップへ](#)

デバイス情報の取得

この機能の説明

デバイス情報の取得では、マイクロソフト からお使いのハードウェア デバイスに関する情報 (製造元、詳細、およびデバイスの画像など) をダウンロードして表示します。

収集、処理、または転送される情報

関連するデバイス情報を取得するため、この機能はお使いのデバイス ID (例えば、使用中のデバイスのハードウェア ID やモデル ID など)、ロケール、およびデバイス情報の最終更新日などを含むデータを マイクロソフト に送信します。ユーザーのコンピューターにダウンロードされたデバイス情報には、モデル名、説明、デバイスの製造元のロゴ、およびデバイス関連のタスクなどが含まれる場合があります。

情報の使用

収集された情報は、関連するデバイスの情報のダウンロードに役立てられます。お客様個人を特定したり、お客様と連絡を取ったりするために、送信された情報を使用することはありません。

選択および制御

Windows 7 セットアップの実行中に推奨設定を選択すると、[デバイス情報の取得] が有効になります。この機能の無効化は、[コントロール パネル] の [デバイスとプリンター] で行うことができます。[デバイスとプリンター] で、コンピューターのアイコンを右クリックし、[デバイス インストールの設定] をクリックします。[いいえ、自分で選択します] を選択し、[汎用のデバイス アイコンを、拡張されたアイコンで置き換える] チェック ボックスをオフにします。

[ページのトップへ](#)

デバイス マネージャー

この機能の説明

デバイス マネージャーを使用すると、お使いのハードウェア デバイスの最新のドライバーをインストールするのに役立ちます。[ドライバー ソフトウェアの更新] ウィザードで、コンピューターにインストールされているハードウェアのデバイス ドライバーの更新、ハードウェア設定の修正、およびデバイスやドライバーの問題のトラブルシューティングを行うことができます。

収集、処理、または転送される情報

お使いのハードウェアに適用される更新プログラムを決定するため、お使いのコンピューターからプリンターやその他のデバイスなどの設定情報が収集され、マイクロソフト へ送信されます。デバイス マネージャーとドライバー ソフトウェアの更新ウィザードは、Windows Update と連携してこの情報を収集します。Windows Update によって収集される情報とその使用方法についての詳細は、「[Update Services のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。

情報の使用

収集された情報は、コンピューターのハードウェアやインストール済のデバイスに適用される更新プログラムを決定するのに使用されます。マイクロソフト は、お客様のコンピューター設定によって収集された情報を、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために使用することはありません。

選択および制御

デバイス マネージャーは既定で有効になっており、無効にすることはできません。しかし、デバイス マネージャーが マイクロソフト へ構成情報を送信し、更新されたドライバーをダウンロードするのは、[ドライバー ソフトウェアの更新] ウィザードを開いて、ドライバー ソフトウェアの更新を選択した場合のみです。デバイス マネージャーの開き方と [ドライバー ソフトウェアの更新] ウィザードの使用方法については、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

[ページのトップへ](#)

動的更新

この機能の説明

動的更新により、Windows 7 は Windows Update の Web サイトを一度にチェックし、Windows のインストール中にユーザーのコ

コンピューターのための最新の更新プログラムを取得できます。更新プログラムが見つかった場合は、動的更新により自動的にダウンロードおよびインストールされるので、初めてログオンまたは使用するときにはコンピューターは最新の状態になります。

収集、処理、または転送される情報

互換性のあるドライバーをインストールするため、動的更新がユーザーのコンピューターのハードウェアに関する情報を マイクロソフト に送信します。動的更新でコンピューターにダウンロードできる更新プログラムには、次のような種類があります。

- インストール更新プログラム：インストールの成功を確実にするために役立つ、インストール ファイルの重要なソフトウェア更新プログラムです。
- インボックス ドライバー更新プログラム：インストールする Windows バージョン用の重要なドライバー更新プログラムです。

情報の使用

動的更新ソフトウェアが、コンピューターのハードウェアに関する情報を マイクロソフト に報告し、システムに適したドライバーを特定します。動的更新が収集する情報の使用方法については、「[Update Services のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。

選択および制御

Windows 7 セットアップのはじめに、動的更新の使用を選択することができます。

[ページのトップへ](#)

コンピューターの簡単操作センター

この機能の説明

コンピューターの簡単操作センターでは、ユーザー補助オプションと設定を有効にし、コンピューターをより容易に操作できます。

収集、処理、または転送される情報

この機能を使用するには、シリーズから該当する声明を選択するよう求められます。

これらの声明には、次のものがあります。

- テレビの画像やテキストが見えにくい。
- 照明の状況のため、モニターの画像が見えにくくなる。
- キーボードを使用しません。
- 目が見えません。
- 耳が聞こえません。
- 話すときに困難があります。

この情報は、人間が読み取ることのできない形式で、ユーザーのコンピューターにローカルに保存されます。この情報はマイクロソフトには送信されません。ユーザーとコンピューターの管理者のみがこの情報を利用でき、他のユーザーはアクセスできません。

情報の使用

選択した声明に基づいて、推奨設定のセットが提供されます。

選択および制御

コントロール パネルの [コンピューターの簡単操作センター] で該当する声明を指定できます。選択内容はいつでも変更できます。また、推奨設定のうち、コンピューターに設定したいものを選択することもできます。

[ページのトップへ](#)

イベント ビューアー

この機能の説明

コンピューターのユーザー、主に管理者は、イベント ビューアーを使用して、イベント ログを閲覧および管理できます。イベント ログにはコンピューターのハードウェア、ソフトウェア、およびセキュリティ イベントに関する情報が含まれます。また、[イベント ログ オンライン ヘルプ] リンクをクリックすることで、イベント ログのイベントについての情報を マイクロソフト から取得できます。

収集、処理、または転送される情報

イベント ログには、コンピューター上のすべてのユーザーとプログラムによって生成されたイベント情報が含まれます。既定で

は、すべてのユーザーはログ エントリを表示できるようになっていますが、管理者はイベント ログへのアクセスを制限することができます。イベント ビューアーを開いてコンピューターのイベント ログへアクセスできます。イベント ビューアーの開き方についての詳細は、Windows ヘルプとサポートを参照してください。

情報の使用

[イベント ログ オンライン ヘルプ] リンクをクリックするとイベント情報が収集され、マイクロソフトへ送信されます。イベント情報は、イベントに関する追加情報を特定し、提供するために使用されます。イベント情報の自動送信を行うよう同意しない限り、リンクをクリックするとダイアログ ボックスが表示され、ダイアログ ボックスに記載された情報をインターネットで送信することに対する同意を求められます。同意した場合、情報は Web サイトへ送信され、イベントとして記録された問題の解決策など、イベントに関するその他の利用可能な情報があるかどうかを確認します。マイクロソフトのイベントの場合、イベントの詳細がマイクロソフトへ送信されます。マイクロソフトは、お客様に連絡したりお客様を特定したりするためにこの情報を使用することはありません。サードパーティのプログラムに関連するイベントの場合、情報はサードパーティの発行元または製造元が指定した場所へ送信されます。イベントに関する情報をサードパーティの発行元または製造元に送信する場合、情報の使用はサードパーティのプライバシー基準に従うことになります。

選択および制御

管理者は、イベント ビューアー ログへのアクセスを制限するよう選択できます。イベント ビューアーへのフル アクセスを持つユーザーは、ログをクリアすることができます。イベント情報の自動送信を行うよう同意しない限り、[イベント ログ オンライン ヘルプ] をクリックすると、表示された情報をインターネットで送信することに対する同意が求められます。送信に同意しない限り、イベント ログ情報がインターネットで送信されることはありません。管理者はグループ ポリシーを使用して、イベント情報を送信するサイトを指定または変更することができます。

[ページのトップへ](#)

FAX

この機能の説明

FAX 機能では、FAX 送付状を作成および保存し、コンピューターや外部または内蔵 FAX モデム、または FAX サーバーを使用して FAX の送受信を行うことができます。

収集、処理、または転送される情報

収集される情報には、FAX 送付状に入力された個人情報や、送信端末識別 (TSID) や被呼端末識別 (CSID) などの業界標準プロトコルに含まれる識別子が含まれます。既定では、Windows は各識別子の値として "FAX" を使用します。

情報の使用

送信者のダイアログ ボックスに入力された情報は、FAX 送付状に表示されます。TSID や CSID などの識別子には、受信側の FAX 機器またはコンピューターが送信者の特定のために一般的に使用する、任意のテキストが含まれます。マイクロソフトへ情報が送信されることはありません。

選択および制御

FAX へのアクセスは、コンピューター上のユーザー アカウント権限によって決定されます。FAX 管理者がアクセス設定を変更しない限り、すべてのユーザーは FAX の送受信を行うことができます。既定では、すべてのユーザーが、送信するドキュメントやコンピューター上で受信したすべての FAX を表示できるようになっています。管理者は FAX で送信または受信されたすべてのドキュメントを閲覧できます。また、FAX を表示または管理する権限を持つユーザー、TSID および CSID 値などの FAX 設定を行うこともできます。

[ページのトップへ](#)

ガジェット

この機能の説明

ガジェットは、デスクトップ上で稼働し、ひとめで分かる情報を提供し、よく使うツールへ容易にアクセスできるようにするプログラムです。

収集、処理、または転送される情報

為替、株価および天気などの一部のガジェットについては、インターネットに接続して情報を収集し、天気情報の場所などの追加情報を送信する場合があります。

情報の使用

マイクロソフトがマイクロソフト ガジェットから収集した情報はガジェットの機能性を提供するために使用し、お客様を特定したり、お客様に連絡を取ったりするために使用することはありません。マイクロソフト 以外のガジェットをお使いの場合は、情報の使用はガジェットのプロバイダーのプライバシーの基準に従うこととなります。

選択および制御

天気などの特定のガジェットは、最初に使用する際にインターネットに接続するよう事前設定された場合があります。ですが、コントロール パネルの [デスクトップ ガジェット] で、後から設定をしたり、閉じることもできます。

[ページのトップへ](#)

ゲーム フォルダー

この機能の説明

ゲーム フォルダーは、コンピューターにインストールされるゲームの一覧を作成していて、1 箇所ですべてのゲームを表示し、起動することができます。また、ゲーム フォルダーではボックスの絵柄、発行者情報、パフォーマンス評価、保護者による制限のレーティングなど、ゲームに関する追加情報をダウンロードすることもできます。

収集、処理、または転送される情報

ゲーム フォルダーはオプションで、各ゲームの最終プレイ時間を記録し、ゲームを並べ替えたりフィルターをかけることができます。ゲームのプレイ時間についての情報は、コンピューター上に保存され、マイクロソフト へは送信されません。ゲーム フォルダーでは、マイクロソフト からインストールしたゲームに関する情報を収集するよう指定することもできます。指定すると、ゲームの ID 番号を含めた情報がマイクロソフト へ送信されます。

また、ゲーム アイコンを右クリックして [更新プログラムをオンラインで検索する] を選択することで、一部のゲームの更新プログラムを確認することができます。ゲームのバージョン情報とゲームの ID 番号がマイクロソフト に送信され、利用可能な更新プログラムがある場合は通知されます。Windows が自動検索を行うよう設定し、ゲームの更新プログラムがある場合は、オプションメニューから通知するよう設定することもできます。

インターネット バックギャモンやインターネット スペードなどの一部のゲームには、世界中のプレイヤーと対戦できる機能が含まれています。[プレイする]を選択すると、ゲームプレイを提供するため、標準コンピューター情報と GUID がマイクロソフトに送信されます。収集された情報は、お客様個人を特定したり、お客様と連絡を取ったりするために使用することはありません。

情報の使用

マイクロソフトへ送信された情報は、インストールしたゲームの情報を取得するために使用されます。マイクロソフトは、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために情報を使用することはありません。

選択および制御

ゲームフォルダーの情報の収集または記録機能は、有効/無効を切り替えることができます。オプションメニューからゲーム情報を収集および表示し、ゲームのプレイ回数を記録するよう選択することもできます。オプションメニューからいつでもこれらの機能を無効化することができます。Windows 7 に搭載されているインターネットゲームをやめるよう選択した場合、情報はマイクロソフトへ送信されません。

[ページのトップへ](#)

手書き認識 (Tablet PC でのみ利用可能)

個人設定 — 自動学習機能

この機能の説明

自動学習機能は、Tablet PC および外部タブレットで使用できる手書き認識機能です。この機能は、使用される単語や単語の書き方に関するデータを収集します。自動学習機能は既定では有効になっており、手書き認識ソフトウェアが手書き入力の書き方やボキャブラリを認識し、変換精度を向上できるようにします。

収集、処理、または転送される情報

自動学習機能で収集された情報は、Tablet PC 上の各ユーザーのユーザー プロファイル内に保存されます。データは専用フォーマットで保存され、ノートパッドやワードパッドなどのテキスト表示プログラムで読み取ることはできません。ユーザー自身、およびコンピューターの管理者のみが読み取ることができます。

収集される情報には、次の項目が含まれます。

- マイクロソフト Office Outlook 2007 や Windows Live メールなどの電子メール プログラムを使用して作成したメッセージのテキストや、作成したカレンダー エントリの内容。これには送信済みのメッセージがすべて含まれます。
- ブラウザーのアドレス バーに入力したテキスト。
- Tablet PC 入力パネルに記載したインク。
- 入力パネルで記載したインクから認識されたテキスト。
- 認識されたテキストを修正するよう選択した置き換え後の文字。

注：一部の言語では、自動学習機能で追加情報を収集する場合があります。詳細については、Windows ヘルプとサポートの「Tablet PC 上での手書き認識個人用設定」トピックを検索してください。

情報の使用

収集された情報は、ユーザー独自の書き方やボキャブラリーに個人設定された認識ソフトウェアのバージョンを作成することにより、手書き認識精度を向上させ、ソフト キーボード上の入力内容に応じて候補を表示するテキスト予測を可能にするために使用されます。

テキスト サンプルは、拡張辞書の作成に使用されます。インク サンプルは、Tablet PC の各ユーザーに対する文字認識機能を向上させるために使用されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。

選択および制御

自動学習機能のオンとオフは、コントロール パネルの [Tablet PC 設定] でいつでも切り替えることができます。自動学習機能をオフにすると、自動学習機能によって収集および保存されたデータはすべて削除されます。

手書き認識機能のエラー報告

この機能の説明

Tablet PC 入力パネルの使用中に発生した手書き認識エラーについて、マイクロソフト に報告を送信することができます。

収集、処理、または転送される情報

最近修正された手書き認識のサンプルは、メモリ内に保存されま

す。これらの手書き認識のサンプルを マイクロソフト へ送信するよう選択できます。意図的に個人情報を収集することはありませんが、送信するよう選択したサンプルに個人情報が含まれる可能性があります。それぞれの報告に対して、エラーについてのコメントを送信するよう選択することもできます。マイクロソフトは、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために収集した情報を使用することはありません。

情報の使用

報告の送信を選択した場合、マイクロソフト 手書き認識ソフトウェアの将来のバージョンの向上に使用されます。送信するよう選択しない限り、マイクロソフト に情報は送信されません。

選択および制御

報告したい認識エラーを選択することができます。Tablet 入力パネルの使用中に [手書き認識エラー報告] ツールを使用して報告を開始することができます。また、Tablet PC または他のデバイスのインクを使用した後、候補識別を選択すると [手書き認識エラー報告] ツールが開きます。報告に含める手書き入力サンプルをそれぞれ選択し、マイクロソフト へ送信する前に報告を見直すことができます。報告は自動的に送信されません。

個人設定トレーニング

この機能の説明

個人設定トレーニングを使用することで、手書き識別ソフトウェアをトレーニングして、ユーザーの書き方に対する識別精度を上げることができます。

収集、処理、または転送される情報

個人設定トレーニングを使用すると、ユーザーの手書きサンプルはメモリ内に保存されます。これらの手書き認識のサンプルを マイクロソフト へ送信するよう選択できます。意図的に個人情報を収集することはありませんが、送信するよう選択したサンプルに個人情報が含まれる可能性があります。マイクロソフトは、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために情報を使用することはありません。

情報の使用

手書きサンプルを マイクロソフト へ送信するよう選択した場合、マイクロソフト 手書き認識ソフトウェアの将来バージョンの向上に使用されます。

選択および制御

各トレーニング セッションの最後には、手書きサンプルを マイク

ロソフトへ送信するよう選択できます。[インク サンプルを送信しない] を参照してください。

[ページのトップへ](#)

ホームグループ

この機能の説明

ホームグループにより、ホーム ネットワーク内の Windows 7 コンピューターと簡単にリンクして画像、音楽、ビデオ、ドキュメントおよびデバイスを共有することができます。また、メディアエクステンダーなど、ホーム ネットワーク上のデバイスにメディアをストリーム配信できるようになります。パスワードを使用してホームグループの保護を行ったり、共有する内容を選択することができます。

収集、処理、または転送される情報

ホームグループでは、既定で画像、ビデオ、音楽およびドキュメントなどのファイルが共有されるよう設定されています。また、ホームグループ内のすべてのユーザーやコンピューターでユーザー名などの情報も共有されます。

情報の使用

収集した情報によって、ホームグループ内のコンピューターは内容を共有するユーザーと、表示方法を理解することができます。マイクロソフトへ情報が送信されることはありません。

選択および制御

ホームグループにコンピューターを追加またはホームグループからコンピューターを削除できます。また、他のホームグループメンバーと共有する内容を指定することもできます。いつでもパスワードを設定したり変更することができます。コントロールパネルの [ネットワークと共有センター] でホームグループを作成し、その設定を管理できます。

[ページのトップへ](#)

入力方式エディター (IME)

IME 学習機能

この機能の説明

マイクロソフト 入力方式エディター (IME) は、東アジアの言語に使用され、キーボード入力を表意文字へ変換するのに使用されま

す。簡体字中国語、繁体字中国語および日本語用 IME の学習機能では、表示された表意文字の選択精度を向上するため、単語や単語の組み合わせを記録する場合があります。

収集、処理、または転送される情報

IME 学習機能は、単語または単語の組み合わせと、ユーザー操作の結果としての関連スコアを記録します。この情報（数字/記号文字の配列を除く）は、コンピューター上の各ユーザーのユーザー辞書内に保存されます。

情報の使用

学習データは、お使いのシステム上の IME によって使用されます。また、マイクロソフト Office 校正ツールに参照される場合があります。マイクロソフトへ情報が送信されることはありません。

選択および制御

学習機能は既定では有効になっていますが、IME 機能をオフにすることで無効化できます。日本語用 IME では、ユーザー辞書に記載しないよう、学習機能を設定することもできます。ユーザー辞書の内容を削除することもできます。

IME 単語の登録 (日本語用 IME でのみ利用可能)

この機能の説明

単語の登録を使用して、サポートされていない単語（キーボード入力から表意文字へ正確に変換されない場合がある単語）を報告することができます。

収集、処理、または転送される情報

単語登録には、報告される単語について [単語の追加] ダイアログボックスに記入した情報と、IME のソフトウェア バージョン番号を含めることがあります。これらの報告には、個人情報（例えば、単語の登録を使用して個人名を追加した場合など）が含まれる場合がありますが、マイクロソフトはこの情報を、お客様個人を特定したり、連絡をする目的で使用しません。送信前に各レポートで送信するデータを見直す機会があります。

情報の使用

マイクロソフトは、この情報を入力編集の向上に使用します。

選択および制御

単語登録レポートを作成するたびに、このレポートをマイクロソフトへ送信するかどうかを尋ねられます。送信するかどうかを選択する前に、報告に含まれる情報を表示することもできます。

ページのトップへ

インストール向上プログラム

この機能の説明

この機能は、コンピューターに関する基本情報と、Windows 7 のインストール方法についての情報を含めた単一のレポートをマイクロソフトに送信します。マイクロソフトはこの情報を、インストールエクスペリエンスを向上させ、一般的なインストールの問題への解決策の作成に役立てるために使用します。

収集、処理、または転送される情報

レポートには一般的に、ユーザーが経験したインストールまたはセットアップに関する情報が含まれます。たとえば、インストールの日付、インストールの各フェーズにかかった時間、インストールがアップグレードなのか製品の新しいインストールなのか、バージョン詳細、オペレーティングシステムの言語、メディアの種類、コンピューターの構成、成功または失敗の状態（エラーコードを伴う）などがあります。

インストール向上プログラムへの参加を選択する場合、インターネットへ接続するとマイクロソフトにレポートが送信されます。このレポートには、お客様のお名前、住所、電話番号など、連絡先に関する情報は含まれません。GUID が生成され、レポートとともに送信されます。GUID は、コンピューターを一意に識別する、ランダムに生成された番号です。個人情報に含まれません。

情報の使用

マイクロソフト および当社のパートナーは、このレポートを当社のソフトウェアの向上に使用します。Microsoft では、GUID を使用して、このデータを Windows カスタマー エクスペリエンス向上プログラム (CEIP) によって収集されたデータと関連付けます。CEIP は Windows 7 を使用する際に参加を選択できるプログラムです。この GUID によって、受信するフィードバックが広がっている程度、およびその優先順位の付け方を判断することができます。たとえば、GUID によってマイクロソフトは、ある問題について、一人の顧客が 100 回経験しているか、100 人の顧客がそれぞれ 1 回経験しているかを区別することができます。マイクロソフトは、インストール向上プログラムによって収集された情報を、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために使用することはありません。

選択および制御

Windows 7 をインストールする際に [**Windows** インストールの向上に協力します] チェック ボックスをオフにします。

詳細については、「Windows カスタマー エクスペリエンス向上プログラム (CEIP)」(下記) を参照してください。

[ページのトップへ](#)

インターネット印刷

この機能の説明

インターネット印刷を使用すると、Windows 7 を実行しているコンピューターは、ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) を使用して印刷ジョブを送信することにより、世界中のどこにあるプリンターでも使用できるようになります。

収集、処理、または転送される情報

この機能を使用して印刷を行う場合、最初にインターネット プリント サーバーに接続し、自分自身を認証する必要があります。プリンター サーバーへ送信する必要がある情報は、プリンター サーバーがサポートするセキュリティのレベルによって異なります (例えば、ユーザー名とパスワードの入力が求められる場合があります)。印刷ジョブは暗号化されていないため、他人が送信される内容を見ることができ可能性があります。接続が完了すると、利用可能なプリンターの一覧が表示されます。コンピューターに選択したプリンター用のプリンター ドライバーがない場合は、プリント サーバーからドライバーをダウンロードするよう選択できます。

情報の使用

収集された情報によって、リモート プリンターを使用して印刷できます。マイクロソフト によってホストされているプリント サーバーの使用を選択した場合、マイクロソフト はお客様個人を特定したり、お客様と連絡を取ったりするために、これらの情報を使用することはありません。情報をサードパーティのプリント サーバーに送信する場合、情報の使用はサードパーティのプライバシー基準に従うことになります。

選択および制御

コントロール パネルの [プログラムと機能] で [**Windows** の機能を有効または無効にします] を参照してください。

[ページのトップへ](#)

位置センサーとその他のセンサー

この機能の説明

位置センサーとその他のセンサーを使用すると、Windows からセンサーにアクセスできます。センサーは、現在の位置またはコンピューター周辺の光の量などの情報を検知できるハードウェアおよびソフトウェアです。この機能は、プログラムが位置センサーやその他のセンサーを使用せずにセンサーにアクセスするのを防いだり、制御しません。例えば、一部のセンサーがアプリケーションに直接センサーの情報を送信する場合があります。

収集、処理、または転送される情報

センサーは、コンピューター上の任意のプログラムに対して、コンピューターの位置などの個人情報を提供する場合があります。センサー アクセスを有効化した場合、コンピューター上の任意のプログラムはセンサー情報へアクセスできるし、この情報をコンピューターの外部へ伝送することもできます。

情報の使用

[位置センサーとその他のセンサー] では、この Windows 7 機能を通じてアクセス可能なセンサーを選択できます。位置センサーとその他のセンサーによって、マイクロソフト に自動的に情報が送信されることはありません。センサーを有効化するよう選択した場合、コンピューター上の任意のプログラムはコンピューターの外部にセンサー情報を伝送できます。

選択および制御

Windows がセンサー情報をプログラムに提供するかどうか、またアクセス権を持つユーザーを選択することができます。コントロール パネルの [位置センサーとその他のセンサー] からこれらの設定を行うことができます。これは、この Windows 機能でない機能が提供するセンサー情報に対して、プログラムがアクセスできるかどうかには影響しません。センサーの制御およびセンサーがプライバシーに与える影響についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

マイクロソフト エラー報告サービス

この機能の説明

マイクロソフトエラー報告サービスは、ご使用のソフトウェアの

問題を マイクロソフト および Windows パートナーが診断し解決策を提供するのに役立ちます。すべての問題に解決策があるとは限りませんが、解決策が存在する場合、その解決策が、報告した問題を解決する手順、またはインストールすべき更新プログラムとして提示されます。問題を防止しソフトウェアの信頼性をより高めるため、一部の解決策は、ソフトウェアの Service Pack および将来のバージョンにも含まれます。

マイクロソフト エラー報告サービスではまた、セットアップ修復も提供します。セットアップ修復は、Windows セットアップ時に問題が発生した場合、実行されることがあるエラー報告サービスです。

収集、処理、または転送される情報

Windows 7 など多くの マイクロソフト ソフトウェア プログラムは、エラー報告サービスと連携して機能するように設計されています。これらのソフトウェア プログラムのいずれかに問題が生じた場合、ユーザーはレポートを送信するかどうかを確認するメッセージが表示される場合があります。Windows オペレーティングシステムを使用して仮想マシンをホストしている場合、Windows オペレーティングシステムによって マイクロソフト エラー報告サービス用に生成されたレポートには、仮想マシンに関する情報が含まれる場合があります。

レポート サービスは、発生した問題の診断および解決に役立つ次のような情報を収集します。

- ソフトウェアまたはハードウェア内の問題の発生場所
- 問題の種類または重大さ
- 問題を説明するのに役立つファイル
- ソフトウェアとハードウェアの基本情報
- 考えられるソフトウェアのパフォーマンスと互換性の問題

これらのレポートには、意図せず個人情報が含まれる場合があります。たとえば、コンピューター メモリのスナップショットを含むレポートには、ユーザーの名前、作業中だったドキュメントの一部、または Web サイトに最近送信したデータが含まれる場合もあります。レポートにこの種類の情報が含まれる可能性がある場合、セットアップまたはコントロール パネルから [推奨設定] で

自動レポートを有効化している場合であっても、Windows はこの情報を送信するかどうかをユーザーに確認します。これにより、ユーザーには マイクロソフト に送信する前にレポートを確認する機会が与えられます。ファイルとデータを含めるレポートは、ユーザーが確認および送信するまで、または送信した後にコンピューターに保存される場合があります。

レポートに個人情報が含まれている場合、マイクロソフト はこの情報をお客様個人を特定したり、連絡をする目的で使用しません。さらに、セットアップまたはコントロールパネルの [推奨設定] で自動レポートを有効化している場合、報告サービスは問題の発生場所についての基本情報を自動的に送信しますが、これらのレポートには上記の詳細は含まれません。

レポートの送信後、報告サービスは発生したエラーについての追加情報を求めてくる場合があります。この情報にユーザーの電話番号や電子メール アドレスを提供するよう選択した場合、エラーレポートは個人を特定できるようになります。お客様が報告した問題を解決するため、マイクロソフト がお客様に連絡してさらに情報を依頼する場合があります。

マイクロソフト エラー報告サービスでは、グローバル識別子 (GUID) を生成します。GUID はコンピューター上に保存され、ユーザーのコンピューターを一意に識別するためエラー レポートと一緒に送信されます。GUID はランダムに生成された番号で、個人情報は含まれておらず、ユーザーを特定するためには使用されません。GUID を通じて、受信するフィードバックが広がっている程度、およびその優先順位の付け方を判断します。たとえば、GUID によってマイクロソフト は、ある問題について、一人の顧客が 100 回経験しているか、100 人の顧客がそれぞれ 1 回経験しているかを区別することができます。

情報の使用

マイクロソフト は、エラーおよび問題に関する情報を、マイクロソフト 製品とサービス、およびこれらの製品とサービスで使用するよう設計されたハードウェアとソフトウェアを向上させるために使用します。マイクロソフト の従業員、契約者、ベンダー、およびパートナーが、エラー報告サービスで収集された情報へのアクセス権を与えられる場合があります。しかし、これらの情報は、マイクロソフト 製品とサービス、およびこれらの マイクロソフト 製品とサービスで使用するよう設計されたサードパーティ

製のハードウェアとソフトウェアを向上させるためにのみ使用されます。

マイクロソフトはエラーおよび問題に関する集計情報を共有する場合があります。マイクロソフトは集計情報を統計分析に使用します。集計情報には、個別のレポートからの特定の情報が含まれたり、レポートから収集された可能性のある個人情報または機密情報が含まれたりすることはありません。

選択および制御

Windows 7 セットアップの実行中に推奨設定を選択すると、解決策の自動確認が有効になり、基本的なエラー報告が送信されて報告された問題に対する解決策が検索されます。自動確認を使用する場合、エラーに関する基本情報をマイクロソフトに送信するよう提示されません。もっと詳細なエラーレポートが必要な場合、確認するよう提示されます。コントロールパネルの [アクションセンター] でこの設定を変更できます。

詳細については、プライバシーに関する声明の「[マイクロソフトエラー報告サービス](#)」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

ネットワーク認識

この機能の説明

この機能は、コンピューターのドメイン名サービス (DNS) サフィックス、ネットワーク名およびコンピューターが接続しているネットワークのゲートウェイアドレスなどのインターネットおよびイントラネット ネットワーク接続情報を収集します。ネットワーク認識機能は、正常に機能するために情報を必要とする可能性があるコンピューター上のプログラムが、接続情報を利用できるようにします。

収集、処理、または転送される情報

ネットワーク接続性プロフィールは、レジストリ内に保存されます。ネットワーク接続性プロファイルには、アクセスしたすべてのネットワークの履歴や、最後に接続した日付や時刻を提供するネットワーク 一覧サービスを含めることができます。ネットワーク接続性ステータスは、この目的のために設計されたマイクロソフト サーバーに接続を試みることにより判断できます。

情報の使用

ネットワークの接続性検査の間に標準のコンピューター以外の情報がマイクロソフト サーバーに送信されると、情報はマイクロソフト には送信されませんが、ネットワーク接続性情報を要求するために使用中のコンピューター上のプログラムで使用できるようになります。

選択および制御

ネットワーク位置認識およびネットワーク リスト サービスは既定で有効になっています。管理者は、管理ツールの [サービス] で提供されるオプションを使用して、これらを無効にすることができます。一部の Windows 機能が正常に動作しなくなるため、これらの機能の無効化はお勧めしません。

[ページのトップへ](#)

プリントの注文

この機能の説明

プリントの注文を使用すると、コンピューターまたはネットワーク ドライブ上に保存されているデジタル写真を、選択したオンラインの写真印刷サービスへ送信することができます。このサービスによって、写真をプリントして郵送してもらうか、地元の店でプリントを受け取ることができます。

収集、処理、または転送される情報

オンラインの写真印刷サービスで注文を行った場合、デジタル写真はインターネットで選択したサービスに送信されます。サービスが画像を表示およびアップロードできるように、選択したデジタル写真の完全なファイルの位置がサービスに送信されます。デジタル写真ファイルには、カメラによってファイルに保存された画像についてのデータ（撮影日時など）が含まれる可能性があります。ファイルには、デジタル写真管理プログラムと Windows Explorer の使用を通じてファイルと関連付けられる可能性のある個人情報（キャプションなど）が含まれる可能性があります。詳細については、「プロパティ」（下記）を参照してください。

プリントの注文機能でオンラインの写真印刷サービスを選択すると、[プリントの注文] ウィンドウ内に表示された Web サイトへ移動します。オンラインの写真印刷サービスの Web サイトに入力した情報は、サービスへ伝送されます。

情報の使用

カメラによってデジタル写真ファイルに保存された情報は、印刷

プロセス中、画像の色や鮮明さの調節などのために、オンラインの写真印刷サービスによって使用される場合があります。デジタル写真管理プログラムに保存された情報は、プリント コピーの表または裏面にキャプションとしてプリントするために、オンラインの写真印刷サービスで使用される場合があります。オンラインの写真印刷サービスによって、この情報、およびユーザーがサービスに対して提供したその他の情報 (Web サイト上に入力した情報など) の使用は、それらサービスのプライバシー基準に従うこととなります。

選択および制御

[プリントの注文] を使用して、送信する写真と、写真の印刷に使用するサービスを選択することができます。一部の写真管理プログラムでは、プリントする写真の送信前に、保存されたユーザーの個人情報を削除できるようにしている場合があります。また、ファイルのプロパティを編集して、保存した個人情報を削除することもできます。ファイル プロパティの表示や変更についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

保護者による制限

この機能の説明

この機能は、保護者が子供のコンピューターで行う活動を制限し、監視するのに役立ちます。子供が遊ぶことのできるゲーム、実行できるプログラムに対して制限を設けることができます。この機能を正常に使用するには、保護者のみがコンピューターの管理者となり、子供には管理者権限が与えられないようにする必要があります。

収集、処理、または転送される情報

保護者による制限の設定とアクティビティ ログは、ローカルに保存されます。保護者による制限のアクティビティ ログには、子供の活動についての情報、およびその子供に対する保護者による制限設定の変更が含まれます。

情報の使用

保護者による制限設定は、制限を設けたり、監視する活動を決定するのに使用されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。

選択および制御

保護者による制限を使用して監視する対象となるのは、管理者権限を持たないユーザーのみです。管理者を監視することはできず、管理者は設定とログのフル コントロールを持ちます。保護者による制限は既定では無効になっています。管理者のみがこの機能を有効にすることができます。管理者からそのユーザーのアカウントに適用された設定だけは、その他のユーザーに表示できます。監視または制限の対象となる子供には、[保護者による制限] がアカウントで有効となっていることを示すアイコンが通知領域に表示されます。コントロール パネルの [保護者による制限] に移動して保護者による制限にアクセスできます。

[ページのトップへ](#)

プラグ アンド プレイ

この機能の説明

Windows プラグ アンド プレイを使用すると、コンピューター上にハードウェア デバイスを簡単にインストールできます。プラグ アンド プレイ デバイスを接続するとき、Windows は自動的に互換性を持つドライバーをインストール、デバイスを認識するようコンピューターを更新し、コンピューターがデバイスと連携させるために必要なシステム リソースを割り当てます。プラグ アンド プレイ デバイスをインストールすると、ドライバーは、デバイスを使用するたびに設定され、動的に読み込まれます（一般的に入力は要求されません）。

収集、処理、または転送される情報

プラグ アンド プレイ デバイスをインストールするとき、Windows Update クライアントがオンラインの Windows Update サービスと連絡してデバイス ドライバーを検索およびダウンロードします。Windows Update クライアントは、コンピューターと Windows Update の間のすべての通信を処理します。Windows Update によって収集される情報とその使用方法についての詳細は、「[Update Services のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。

情報の使用

プラグ アンド プレイは、プラグ アンド プレイ デバイスを検出および管理するために、ハードウェア リソースの要件の決定、適切なデバイス ドライバーの検索、ドライバーのロードまたはアンロード、および、電源管理と連動したデバイスのプロセスの開始お

よび停止の処理などの、タスクを実行します。プラグ アンド プレイ デバイスをインストールする場合、オンライン Windows Update サービスへ送信された情報は、適切なデバイス ドライバーのダウンロードとインストールに使用されます。

選択および制御

プラグ アンド プレイは既定では有効になっています。信頼性の問題を回避するため、プラグ アンド プレイを無効化することはできません。しかし、管理者はドライバーの検索場所を決定したり、ユーザーやコンピューターが Windows Update へ自動アクセスできないように指定することができます。

[ページのトップへ](#)

プラグ アンド プレイの拡張機能

この機能の説明

プラグ アンド プレイの拡張機能 (PnP-X) は、ネットワークに接続されているデバイスに対して、プラグ アンド プレイがコンピューターに直接接続されているデバイスに対して行うのと同様のエクスペリエンスを提供します。さらに、この機能を使用すると、コンピューターはローカル ネットワーク上のデバイスを検出および接続できるようになり、PnP-X をサポートしているデバイスがローカル ネットワーク上に存在することがわかるようになります。PnP-X 対応デバイスをインストールすると、ドライバーは、デバイスを使用するたびに設定され、読み込まれます (一般的に 入力 は 要求 され ません)。

収集、処理、または転送される情報

PnP-X 対応デバイスは、デバイスの IP アドレスや GUID などのデータをローカル ネットワーク上で送信することにより自身の存在を知らせる場合があります。PnP-X は、個人情報を含む可能性のあるネットワーク ドライブやデバイス (デジタル カメラなど) を含む、幅広いデバイスをサポートしています。PnP-X 対応デバイスをインストールすると、Windows Update クライアントがオンラインの Windows Update サービスと連絡してデバイス ドライバーを検索およびダウンロードします。Windows Update クライアントは、コンピューターと Windows Update の間のすべての通信を処理します。Windows Update によって収集される情報とその使用方法についての詳細は、「[Update Services のプライバシー](#)

[に関する声明](#)」を参照してください。

情報の使用

PnP-X 対応デバイスをインストールする場合、オンライン Windows Update サービスへ送信された情報は、適切なデバイスドライバのダウンロード、インストールおよび管理に使用されます。ローカル ネットワークで送信される情報は、デバイスの特定と、デバイスによって提供される機能へのアクセスを可能にするために使用されます。

選択および制御

管理者はドライバーの検索場所を決定したり、ユーザーやコンピューターが Windows Update へ自動アクセスできないように指定することができます。ネットワークからアクセスされると、PnP-X を無効化したり、PnP-X 対応デバイスによって送信される情報を制御することはできません。PnP-X 対応デバイスをネットワークに接続する前に、ネットワークの安全性を検証することをお勧めします。ネットワークの保護に役立つ詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

プログラム互換性アシスタント

この機能の説明

実行しようとしているプログラムに互換性エラーが発見されると、プログラム互換性アシスタントが互換性問題の解決を試みます。この機能は、次のような 2 種類のプログラムに役立ちます。

- 既知の互換性のないプログラムの場合：プログラムが Windows 7 の既知の互換性のないプログラムのリストに含まれる場合、プログラム互換性アシスタントが実行します。プログラムが重大な問題を引き起こすと分かっている場合は、ブロックされます。そうでない場合、プログラム互換性アシスタントは、互換性の問題について警告し、プログラム実行のオプションを提供します。どちらの場合であっても、プログラム互換性アシスタントは、情報や解決策をオンラインで確認するというオプションを提供します。
- 互換性のないことが示されて失敗したプログラムの場合：一般的な互換性のないということでプログラムが失敗した場合、プログラム互換性アシスタントが起動し、プログラムを

推奨互換性設定で再試行するというオプションが提供されます。例えば、特定の画面解像度がないために失敗したプログラムは、画面解像度が異なる場合であっても、コンピュータ上で実行できる場合があります。

収集、処理、または転送される情報

プログラム互換性アシスタントは、マイクロソフト エラー報告サービスと連携し、互換性エラーをマイクロソフト に報告します。エラー レポートは、プログラム名、必要な互換性設定、およびこれまでのプログラムの操作などの情報を含めて作成される場合があります。既知の互換性がないプログラムのリストにあるプログラムを実行しようとした場合、オンラインで解決策を確認するためのオプションを選択した場合にのみエラー レポートが作成されます。互換性のないことが示されてプログラムが失敗した場合、エラー レポートはすぐに作成されます。解決策を確認するために自動的に問題を報告するようユーザーが事前に同意した場合を除き、エラー レポートを送信するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。マイクロソフト は、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために情報を使用することはありません。

Windows エラー報告とプライバシーについての詳細は、「[マイクロソフト エラー報告サービス](#)」を参照してください。

情報の使用

エラー報告は、プログラムを報告する問題に対する応答を提供するのに使用されます。応答には、利用可能な場合、プログラム ベンダーの Web サイトへのリンクが含まれます。これにより、ユーザーが考えられる解決策についての詳細を確認することができます。プログラムの失敗によって作成されたエラー レポートは、このバージョンの Windows で実行するプログラムに対する、アプリケーションの互換性問題が生じた場合に、どの設定を調整してみるのかを決定するために使用されます。

選択および制御

エラーを通知するダイアログから、プログラム互換性アシスタントを使用してマイクロソフト に互換性エラーを報告するかどうかを選択することができます。

[ページのトップへ](#)

プログラム プロパティの [互換性] タブ

この機能の説明

プログラム プロパティ ウィンドウの [互換性] タブを使用してプログラム設定を調節すると、プログラムが Windows 7 で正常に実行できるようになる場合があるため、アプリケーションの互換性に問題がある場合、これを使用することができます。

収集、処理、または転送される情報

[互換性] タブを使用して互換性の設定を適用すると、マイクロソフト エラー報告によって、プログラム名と、使用された互換性設定を含むレポートが作成されます。解決策を確認するために問題を報告するようユーザーが事前に同意した場合を除き、エラーレポートを送信するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。マイクロソフト は、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために情報を使用することはありません。

マイクロソフト エラー報告とプライバシーについての詳細は、「[マイクロソフト エラー報告サービス](#)」を参照してください。

情報の使用

[互換性] タブによって マイクロソフト へ送信された情報は、このバージョンの Windows で実行するプログラムの互換性の問題に対する解決策を特定し、見つけるために使用されます。

選択および制御

マイクロソフト へ報告が送信されるかどうかを制御する方法については、「[マイクロソフト エラー報告サービス](#)」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

プロパティ

この機能の説明

プロパティは、ファイルをすばやく検索したり整理することができるファイル情報です。プロパティには、ファイル固有のもの（ファイルのサイズなど）と、プログラムまたはデバイス特有のもの（写真を撮る際のカメラの設定や写真の場所など）があります。

収集、処理、または転送される情報

保存される情報の種類は、ファイルやそれを使用するプログラムの種類によって異なります。プロパティの例には、ファイル名、更新日、ファイル サイズ、作成者、キーワードやコメントが含まれます。プロパティはファイル内に保存され、ファイルが共有されたり、電子メール添付ファイルとして送信されたり、別の場所

に移動またはコピーされる場合はファイルと一緒に移動します。

情報の使用

プロパティを使用すると、ファイルをよりすばやく検索したり整理できます。プログラムで使用し、プログラム特有のタスクを実行することもできます。マイクロソフトへ情報が送信されることはありません。

選択および制御

Windows Explorer のプレビュー ペインを使用して、またはファイルを右クリックして [プロパティ] をクリックし、ファイルのプロパティの一部を編集または削除することができます。更新日、ファイル サイズ、ファイル名などの固有プロパティ、およびプログラム特有プロパティはこの方法で削除できません。プログラム特有のプロパティについては、プログラムがこれらの機能をサポートするファイルの作成に使用される場合にのみ編集または削除できます。ファイル プロパティの変更や削除についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

リモート アクセス接続

この機能の説明

リモート アクセス接続のコンポーネントであるダイヤルアップ ネットワークにより、ダイヤルアップ モデム、またはケーブル モデムやデジタル加入者線 (DSL) などのブロードバンド技術を使用してインターネットにアクセスできます。また、仮想プライベート ネットワーク (VPN) 接続およびリモート アクセス サービス (RAS) を使用してプライベート ネットワークに接続できます。RAS は、クライアント コンピューター (通常はユーザーのコンピューター) をホスト コンピューター (リモート アクセス サーバーとも呼ばれます) に業界標準プロトコルを使用して接続するコンポーネントです。VPN 技術により、インターネット経由で企業ネットワークなどのプライベート ネットワークに接続できます。

ダイヤルアップ ネットワークには、RAS クライアント、接続マネージャー、RAS 電話などのダイヤラー コンポーネント、および Rasdial などのコマンド ライン ダイヤラーが含まれます。

収集、処理、または転送される情報

ダイヤラー コンポーネントは、ユーザーのコンピューターから、ユーザー名、パスワード、ドメイン名などの情報を収集します。

この情報は、接続しようとしているシステムに送信されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。ユーザーのプライバシーおよびコンピューターのセキュリティを保護するために、ユーザー名やパスワードなどのセキュリティに関する情報を暗号化してユーザーのコンピューターに保存します。

情報の使用

ダイヤラー情報は、ユーザーのコンピューターをインターネットに接続するために使用されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。

選択および制御

コマンド ライン以外のダイヤラーの場合、[このユーザー名とパスワードを保存する] にチェックを入れてパスワードの保存を選択できます。また、いつでもそのオプションをクリアすることで、以前保存したパスワードをダイヤラーから削除できます。このオプションは既定ではオフになっているので、インターネットまたはネットワークへ接続用のパスワードの入力を求められる場合があります。Rasdial などのコマンド ライン ダイヤラーの場合、パスワードを保存するオプションはありません。

[ページのトップへ](#)

RemoteApp とデスクトップ接続

この機能の説明

RemoteApp とデスクトップ接続機能を使用すると、リモート アクセス用にオンラインで発行されたリモート コンピューターのプログラムやデスクトップに接続することができます。

収集、処理、または転送される情報

接続を有効にすると、指定したリモート URL から構成ファイルがユーザーのコンピューターにダウンロードされます。これらの構成ファイルは、リモート コンピューターのプログラムとデスクトップにリンクします。これにより、ユーザーが自分のコンピューターからこれらを実行できます。コンピューターは、これらの構成ファイルに対して、定期的に更新について、自動的にチェックおよびダウンロードします。これらのプログラムはリモート コンピューターで実行し、プログラム内に入力した情報は、ネットワークを介してリモート コンピューターに送信されます。

情報の使用

RemoteApp とデスクトップ接続構成ファイルへの更新プログラム

には、新しいプログラムにアクセスするよう提供したものなど設定の変更が含まれる場合がありますが、新しいプログラムは、実行を選択した場合にのみ実行されます。この機能は、リモートプログラムを実行しているリモート コンピューターにも情報を送信します。リモート プログラムによるこのデータの使用は、プログラムの製造元およびリモート コンピューターの管理者のプライバシーの基準に従います。RemoteApp とデスクトップ接続機能を使用して、マイクロソフト のプログラムやデスクトップにアクセスしない限り、マイクロソフト へ情報は送信されません。

選択および制御

RemoteApp とデスクトップ接続を使用するかどうかを選択することができます。コントロール パネルの [RemoteApp とデスクトップ接続] で RemoteApp とデスクトップ接続を追加または削除できます。[**RemoteApp** とデスクトップ接続の新しい接続設定] をクリックし、ダイアログ内に [接続 URL] を入力して新しい接続を追加できます。接続の詳細ダイアログで [削除] をクリックすることで、接続およびその接続ファイルを削除できます。開いているアプリケーションをすべて閉じないで接続を切断すると、これらのアプリケーションはリモート コンピューターで開いたままになります。RemoteApp とデスクトップ接続は、コントロール パネルの [プログラムの追加と削除] のリスト内には表示されません。RemoteApp とデスクトップ接続についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

リモート デスクトップ接続

この機能の説明

リモート デスクトップ接続により、Windows ターミナル サービスを実行中のホスト コンピューターでリモート接続を確立できます。

収集、処理、または転送される情報

リモート デスクトップ接続設定は、コンピューターのリモート デスクトップ プロトコル (RDP) ファイル内に保存されます。これらの設定には、ドメイン名と、(リモート コンピューターの名前、ユーザー名、表示情報、ローカル デバイス情報、オーディオ情報、クリップボード、接続設定、およびリモート プログラム名などの) 接続構成設定が含まれます。

これらの接続やターミナル サービス プロキシの資格情報は、資格情報マネージャーを使用して保存されます。信頼できるターミナル サービス ゲートウェイ サーバー名のリストは、レジストリ内に保存されます。このリストは、管理者によって削除されない限り永久に保存され、マイクロソフト へは送信されません。

情報の使用

この機能によって収集された情報によって、ご希望の設定を使用して Windows ターミナル サービスを実行しているリモート コンピューターに接続できるようになります。接続設定を保存し、RDP ファイルをダブルクリックして接続を起動できるよう、ユーザー名、パスワード、およびドメイン情報が収集されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。

選択および制御

リモート デスクトップ接続を使用するかどうかを選択することができます。使用する場合、RDP ファイルには、ファイルの自動保存時に構成されたオプションや設定などの、リモート コンピューターに接続するために必要な情報が含まれます。別の設定で同一のコンピューターに接続するためのファイルを含めた、RDP ファイルをカスタマイズすることができます。保存した資格情報を修正するには、コントロール パネルの [資格情報マネージャー] に移動します。リモート デスクトップ接続についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

Rights Management Services (RMS) クライアント

この機能の説明

Rights Management Services (RMS) クライアント ソフトウェアは、RMS 対応プログラムと連動して、デジタル情報の不正使用を防ぐ情報保護テクノロジーです。受信者が、ファイル内に含まれた情報を使用する方法（ファイルを開く、修正、印刷または別の操作を行うことができるユーザーの指定など）を定義することができます。権限の制限されたファイルを作成または表示するためには、コンピューターが RMS 対応プログラムを実行中であり、RMS サーバーへのアクセス権を持っている必要があります。

収集、処理、または転送される情報

RMS は電子メール アドレスを使用してユーザーを特定します。ユーザーの電子メール アドレスは、コンピューター上の、RMS サー

バーによって作成された使用ライセンスと ID 証明書に保存されます。ID 証明書と使用ライセンスは、RMS サーバーとの間で伝送されます。ユーザーの電子メール アドレスは、RMS サーバー上にも保存されます。コンピューターが企業またはネットワーク接続された環境の一部であった場合、RMS サーバーは一般的に企業が所有し、企業内に置かれます。Windows Live RMS サービスをご利用の場合、サーバーはマイクロソフトの RMS サーバーになります。マイクロソフト RMS サーバーに送信される情報は、暗号化された状態で送信されます。

情報の使用

使用ライセンスは、保護された情報へのアクセスを許可します。ID 証明書は、RMS サーバーに対してユーザーを特定するために使用されます。また、情報の保護および保護された情報へのアクセスを可能にします。

選択および制御

RMS 機能は、RMS 対応プログラムを通じて有効化する必要があります。デフォルトでは無効化されています。RMS 機能を有効化または使用しないことを選択できますが、有効化しない場合、権限が制限されているファイルを開くことはできません。

[ページのトップへ](#)

Teredo テクノロジ

この機能の説明

Teredo テクノロジ (Teredo) により、コンピューターおよびネットワークは、複数のネットワーク プロトコルで通信できるようになります。

収集、処理、または転送される情報

インターネット プロトコル バージョン 6 (IPv6) に接続するためユーザーがコンピューターを起動するたびに、必要に応じて、Teredo はインターネット上のパブリック IPv6 インターネット サービスを検索します。IPv6 接続の使用に Teredo が必要なプログラムを使用している場合、または IPv6 接続を常に有効化しようファイアウォールを設定している場合、Teredo はインターネットを介してマイクロソフト Teredo サービスに定期的に連絡します。マイクロソフトに送信される情報は、標準コンピューター情報と、要求されたサービスの名前 (teredo.ipv6.microsoft.com など) のみになります。

情報の使用

Teredo によってコンピューターから送信された情報は、コンピューターがインターネットに接続しているかどうか、またパブリック IPv6 サービスを検索できるかどうかを決定するために使用されます。サービスが検出されると、IPv6 サービスとの接続を維持するために情報が送信されます。

選択および制御

netsh コマンド ライン ツールを使用して、サービスがインターネットを経由して送信するクエリを変更し、マイクロソフト 以外のサーバーを代わりに使用したり、この機能を無効にすることができます。

[ページのトップへ](#)

トラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) サービス

この機能の説明

トラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) セキュリティ ハードウェアはコンピューターに内蔵されたマイクロチップです。このマイクロチップがある場合、初期化することで BitLocker ドライブ暗号化などの高度なセキュリティ機能をフル活用できるようになります。

収集、処理、または転送される情報

TPM サービスには、TPM を有効にし、所有者を作成するのに役立つ TPM 初期化機能が含まれています。初期化プロセスの一部として、TPM 所有者パスワードを作成するよう求められます。コンピューターの TPM を使用するには、TPM 所有者パスワードを作成する必要があります。TPM 所有者パスワードによって、このユーザーのみが TPM の管理者機能にアクセスできるようになります。TPM 所有者パスワードを保存することにより、TPM へのアクセスを簡単に管理できます。

TPM 初期化ウィザードにより、TPM 所有者パスワードを印刷または USB フラッシュ ドライブ上のファイルに保存することができます。保存されたファイルには、TPM 所有者パスワードから生成された TPM 所有者の認証情報が含まれています。ファイルにはまた、ファイルの認識に役立つコンピューター名、オペレーティング システムのバージョン、作成者、および作成日の情報も含まれています。

各 TPM は、その信頼性を示す一意の暗号化保証キーを持っています。

す。保証キーはコンピューターの製造元によって作成され保存される場合があります、そうでなければ Windows 7 によって TPM 内の保証キーの作成がトリガーされる必要があります。保証キーは TPM の外部に完全に公開されることは決してなく、いったん作成されるとリセットできません。

TPM の初期化が行われると、プログラムは TPM を使用して、一意の暗号化キーを追加作成し、セキュリティ保護に役立てることができます。たとえば、BitLocker ドライブ暗号化は、TPM を使用してハード ドライブを暗号化するキーを保護します。

情報の使用

TPM 所有者パスワードをあるファイル内に保存することを選択した場合、このファイル内に保存されたコンピューターおよびユーザーの追加情報は、該当するコンピューターと TPM の認識に役立ちます。TPM 保証キーは、TPM へ送信前に、TPM の初期化時、Windows が TPM 所有者パスワードを暗号化するためだけに使用されます。Windows は暗号化キーをコンピューター外部に送信しません。

選択および制御

コンピューターの TPM が初期化されると、TPM サービスでは、管理者はコマンド管理を使用して選択した TPM 機能へのアクセスを制限できます。既定では、Windows によって、個人情報を見逃す可能性のある TPM コマンドや、現在のバージョンのハードウェアで使用されていない TPM コマンドがブロックされます。ブロック リストは、管理者によって変更されることができます。

TPM はいつでもオフにできます。TPM をオフにすると、コンピューター上にあるソフトウェアが TPM の暗号化機能を使用できないようになります。また、TPM をクリアして工場出荷時の状態にリセットすることもできます。TPM をクリアすると、所有者情報や、保証キー以外の、TPM の使用中にプログラムが作成したすべての TPM ベースのキーまたは暗号化データが削除されます。

[ページのトップへ](#)

ルート証明書の更新

この機能の説明

ルート証明書の更新機能は、オンラインの Windows Update サービスと接続して、マイクロソフト が信頼できる機関の一覧に追加

した認証機関にあるかどうかを確認します。しかし、これが実行されるのは直接信頼されていない証明機関によって発行された証明書（コンピューターの信頼された一覧に保存されていない証明書）を持つプログラムがある場合だけです。マイクロソフトの信頼された機関の一覧に認証機関が追加された場合、その証明書は自動的にコンピューター上の信頼された証明書の一覧に追加されます。

収集、処理、または転送される情報

ルート証明書の更新は、オンラインの Windows Update サービスに対して、マイクロソフト ルート証明書プログラムにある最新のルート証明機関一覧の要求を送信します。一覧に信頼されていない証明書がある場合、ルート証明書の更新は Windows Update からその証明書を取得し、コンピューターの信頼された証明書ストアに保存します。転送される情報には、ルート証明書の名前と暗号化ハッシュが含まれます。マイクロソフトは、お客様を特定したりお客様に連絡したりするためにこの情報を使用することはありません。

Windows Update とプライバシーについての詳細は、「[Update Services のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。

情報の使用

情報は、コンピューターの信頼できる証明書一覧を更新するためにマイクロソフトによって使用されます。

選択および制御

ルート証明書の更新は、既定では有効になっています。管理者は、グループポリシーを設定して、コンピューター上での [ルート証明書の更新] を無効化することができます。

追加情報

直接信頼されないルート機関によって発行された証明書を受け取った場合、ルート証明書の更新コンポーネントがコンピューターにインストールされていなければ、認証が必要な操作を完了することはできません。例えば、ソフトウェアのインストール、暗号化またはデジタル署名された電子メール メッセージの表示、あるいはブラウザーでの暗号化セッションの開始などを行うことはできません。

[ページのトップへ](#)

UPnP™ テクノロジ

この機能の説明

UPnP テクノロジは、ネットワーク デバイスに対するピアツーピアのデバイス制御を提供します。UPnP テクノロジを使用すると、標準ベースのプロトコルを通じてネットワーク上のデバイスやサービスを探して、管理できるようになります。

収集、処理、または転送される情報

UPnP テクノロジがユーザーのネットワーク上に UPnP デバイスを検出すると、コンピューターは、そのデバイスから状態の変更などの情報を受信できます。UPnP デバイスで URL を提供している場合、ブラウザを使用して製造元からのコントロール機能、情報、またはデバイス特有の機能にアクセスすることができます。デバイスが適切に構成されている場合は、音楽、画像、ビデオやドキュメントを含め、デバイス上に保存された情報にアクセスできる場合もあります。

情報の使用

交換される情報には、デバイスやサービスに関する基本情報、およびデバイスの製造、モデルおよびシリアル番号などの詳細情報を収集するために使用される URL などが含まれます。さらに、情報には、デバイスやサービス、および機能へのアクセスに使用される URL のリストが含まれる場合があります。UPnP デバイスへのアクセス権限を持つアプリケーションの場合、適切に構成されたデバイスはデバイス上に保存された情報（音楽、画像、ビデオおよびドキュメントなど）をアプリケーションに送信することができます。一部のアプリケーションには、暗号化されていないストリーム配信をキャプチャし、デバイス上に保存された情報のコピーを作成する機能が搭載されている場合があります。

選択および制御

ネットワークで UPnP デバイスの検知を許可または防止するには、コントロール パネルの [ネットワークと共有センター] に移動し、[共有の詳細設定の変更] をクリックすることで、ネットワークの検出を有効化または無効化することができます。既定では、ホーム ネットワークへ参加するようコンピューターを設定している場合 UPnP テクノロジは有効化されますが、職場またはパブリック ネットワークの使用を選択した場合は無効化されます。ネットワーク検出についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

UPnP デバイスをネットワークに接続する前に、ネットワークの安

全性を検証することをお勧めします。ワイヤレス ネットワークの保護に役立つ詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows Anytime Upgrade

この機能の説明

Windows Anytime Upgrade を使用すると、アップグレードを購入できる販売代理店の Web サイトに移動し、お使いのバージョンの Windows 7 を簡単にアップグレードすることができます。

収集、処理、または転送される情報

Windows Anytime Upgrade を使用すると、マイクロソフト Web サイトへ移動します。また、現在の Windows 7 のエディション、国または地域コード、アップグレードするバージョン、どのベンダーから現在のオペレーティング システムを購入したのか、どのショップにアップグレード要求を送信するのかなどの追加情報も送信されます。

お使いのバージョンの Windows 7 がアップグレードされると、Windows Update から更新プログラムが利用可能になる場合があります。Windows Anytime Upgrade の一部として、Windows Update 設定に従ってこれらの更新プログラムがコンピューターにダウンロードされ、インストールされます。Windows Update によって収集される情報とその使用方法についての詳細は、「[Update Services のプライバシーに関する声明](#)」を参照してください。

情報の使用

情報は、ユーザーと販売代理人を結びつけ、コンピューターを正しいバージョンの Windows へアップグレードできるようにするために使用されます。情報はまず マイクロソフト サーバーに送信され、そこで監査のために使用された後、適切な販売代理人へ転送されます。

選択および制御

いつでもアップグレードを開始、または購入プロセスをキャンセルできます。管理者は [グループ ポリシー] から Windows Anytime Upgrade を無効にできます。Windows Anytime Upgrade についての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」を参照してく

ださい。

[ページのトップへ](#)

Windows カスタマー エクスペリエンス向上プログラム (CEIP)

この機能の説明

Windows CEIP に参加すると、マイクロソフト はプログラム、コンピューター、接続しているデバイス、および Windows 7 の使用についての基本情報を収集します。また、それぞれのセットアップや実行方法についての情報も収集します。また、参加した場合、CEIP は、Windows で発生する可能性のある問題についての情報を収集するよう、定期的にファイルをダウンロードします。CEIP レポートは マイクロソフト に送信され、お客様がもっとも頻繁に使用する機能を向上したり、一般的な問題の解決策を作成するのに役立てます。マイクロソフト は、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために収集した情報を使用することはありません。

収集、処理、または転送される情報

CEIP レポートには通常、次のような情報が含まれます。

- **構成**。コンピューター内のプロセッサ数、使用中のネットワーク接続数、ディスプレイ デバイスの画面解像度、および実行している Windows のバージョンなど。レポートにはまた、ユーザーのコンピューターとワイヤレスまたは Bluetooth 対応デバイスとの信号の強度や、高速 USB 接続などの機能がオンになっているかどうかなどの構成情報が含まれる場合があります。
- **パフォーマンスと信頼性**。ボタンをクリックしたときのプログラムの応答速度、プログラムやデバイスで発生した問題の数、およびネットワーク接続を介した情報の送受信の速度など。
- **プログラムの使用**。もっとも頻繁に使用する機能、プログラムの起動頻度、Windows ヘルプとサポートの使用頻度、およびデスクトップ上で通常作成するフォルダーの数など。

CEIP レポートには、CEIP への参加を決定した日から最大 7 日前までのコンピューター上のイベントについての情報 (イベント ログ データ) も含まれます。ほとんどのユーザーは Windows のセッ

トアップから数日以内に CEIP への参加を決定するため、マイクロソフトは Windows 7 セットアップ エクスペリエンスの分析と向上にこの情報を使用します。

インターネットに接続すると、情報がマイクロソフトに送信されます。CEIP レポートに意図的にお客様の名前、住所または電話番号などの連絡先情報を含むことはありませんが、レポートの中にはコンピューターに接続しているデバイスのシリアル番号など、個人識別子が意図せずに含まれる可能性があります。マイクロソフトは CEIP レポートに含まれた情報をフィルターにかけ、含まれる可能性のある個人識別子を削除しようとしています。個人識別子を受信する場合限りにおいて、マイクロソフトはお客様を特定したり、お客様に連絡するためにこれらを使用することはありません。

CEIP では、グローバル識別子 (GUID) を生成します。GUID はコンピューター上に保存され、ユーザーのコンピューターを一意に識別するため CEIP レポートと一緒に送信されます。GUID はランダムに生成された番号で、個人情報は含まれておらず、ユーザーを特定するためには使用されません。

CEIP は、Windows で発生する可能性のある問題についての情報を収集するよう、定期的にファイルをダウンロードします。このファイルにより、Windows は詳細情報を収集し、一般的な問題に対する解決策の作成に役立てることができます。

情報の使用

マイクロソフトは CEIP 情報を、ソフトウェアの向上に使用します。Microsoft はソフトウェアの向上に役立てるため CEIP 情報をマイクロソフト パートナーと共有することがありますが、お客様を特定するために情報が使用されることはありません。GUID を通じて、受信するフィードバックが広がっている程度、およびその優先順位の付け方を判断します。たとえば、GUID によってマイクロソフトは、ある問題について、一人の顧客が 100 回経験しているか、100 人の顧客がそれぞれ 1 回経験しているかを区別することができます。マイクロソフトは、CEIP によって収集された情報を、お客様を特定したりお客様に連絡したりするために使用することはありません。

選択および制御

Windows 7 のセットアップ中に推奨設定を選択すると、Windows CEIP が有効になります。参加を選択すると、CEIP はコンピューター

ターのすべてのユーザーについて上記の情報を収集します。管理者はコントロール パネルの [アクション センター] に移動して、[カスタマー エクスペリエンス向上プログラム設定の変更] を選択し、CEIP のオン/オフを切り替えることができます。

詳細については、「[マイクロソフト カスタマー エクスペリエンス向上プログラム \(CEIP\) : よく寄せられる質問](#)」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows Defender

この機能の説明

Windows Defender は、コンピューター上のマルウェアやその他の望ましくないソフトウェアを検索します。これには、コンピューターが、マルウェアやその他の望ましくないソフトウェアに感染しないようにするための 2 つの方法が用意されています。

- **リアルタイム保護。** マルウェアやその他の望ましくないソフトウェアがコンピューターにインストールされそうになったり、実行されそうになったりすると、Windows Defender によって警告が表示されます。また、Windows の重要な設定をプログラムが変更しようとしたときにも、警告が表示されます。
- **スキャンのオプション。** Windows Defender を使用して、コンピューターにインストールされている可能性のあるマルウェアやその他の望ましくないソフトウェアをスキャンしたり、スキャンを定期的に行うようにスケジュールしたり、スキャン中に検出された悪意のあるソフトウェアを自動的に削除したりできます。

Windows 7 セットアップの実行中に [推奨設定] を選択すると、Windows Defender のリアルタイム保護と自動スキャンが有効になります。Windows Defender は、スキャンを実行する前に、更新された定義を自動でダウンロードしてインストールし、スキャン中に検出した重大または高度な警告レベルのソフトウェアをも自動的に削除します。この設定は、Windows Defender に提供されているオプションを使用していつでも変更できます。

Microsoft SpyNet 特徴

この機能の説明

Microsoft SpyNet マルウェア対策コミュニティは、Windows Defender ユーザーを含める自発的な世界的コミュニティです。Microsoft SpyNet を通じて、ユーザーはマルウェアおよびその他の形式の望ましくないソフトウェアをマイクロソフトに報告できます。Windows 7 をセットアップする際に、Microsoft SpyNet への参加を選択できます。参加を選択すると、マルウェアおよび望ましくないソフトウェアに関するレポートがマイクロソフトに送信されます。レポートで送信された情報の種類は、Microsoft SpyNet メンバーシップのレベルによって異なります。

収集、処理、または転送される情報

Microsoft SpyNet のレポートには、ファイル名、暗号化ハッシュ、ベンダー、サイズ、日付スタンプなどの、問題のファイルまたはプログラムに関する情報が含まれます。さらに、Microsoft SpyNet はファイルの作成元を示す完全 URL を収集する場合があります。完全 URL には、検索用語やフォームに入力したデータなどの個人情報が含まれる場合があります。レポートには、Windows Defender からソフトウェアが検出されたという通知を受けた際にユーザーが適用した動作も含める場合があります。Microsoft SpyNet のレポートにはこの情報が含まれ、Windows Defender が悪意のあるソフトウェアおよび望ましくないソフトウェアを検出し削除する機能の有効性をマイクロソフトが評価するのに役立ちます。

レポートは、次の場合にマイクロソフトに自動的に送信されます。

- Windows Defender が危険性を分析済みでないソフトウェアまたはソフトウェアによるユーザーのコンピューターへの変更を検出する。
- Windows Defender が検出したソフトウェアに動作を適用する。
- Windows Defender がスケジュールされたスキャンを完了し、検出したソフトウェアに、ユーザーの設定に応じて自動的に動作を適用する。

Microsoft SpyNet には、意図せず個人情報が含まれる場合があります。Microsoft SpyNet が個人情報を収集する限りにおいて、マイクロソフトはこの情報をお客様個人を特定したり、連絡をする

目的で使用しません。

ユーザーは、Microsoft SpyNet に基本メンバーシップまたは上級メンバーシップで参加できます。Windows セットアップで推奨の設定を選択する場合は、自動的に基本メンバーシップで参加します。基本メンバー レポートには、上記の情報が含まれます。上級メンバー レポートはより包括的で、場合によっては、ファイルパスや部分的なメモリ ダンプなどからの個人情報が含まれることがあります。これらのレポートは、Microsoft SpyNet に参加している他の Windows Defender ユーザーからのレポートと共に、Microsoft の調査担当者が新しい脅威をより迅速に発見することを可能にします。マルウェアの定義が、分析基準を満たすプログラムに対して作成され、すべてのユーザーが、更新された定義を Windows Update を通じて利用できるようになります。

ユーザーが Microsoft SpyNet に基本メンバーシップまたは上級メンバーシップで参加する場合、マイクロソフト からサンプル送信レポートが要求される場合があります。このレポートには、マイクロソフト が望ましくないソフトウェアである可能性を疑う、ユーザーのコンピューターからの特定のファイルが含まれます。レポートはさらに詳細な分析に使用されます。このサンプル送信レポートを マイクロソフト に送信するかどうか、毎回、質問されます。

ユーザーのプライバシーを保護するために、マイクロソフト に送信されるレポートは暗号化されます。

情報の使用

Microsoft SpyNet のレポートは、マイクロソフト のソフトウェアおよびサービスを向上させるために使用します。レポートは、統計または他のテストあるいは分析の目的、定義の生成のためにも使用される場合があります。マイクロソフト の従業員、契約者、パートナー、およびレポートを使用する必要のあるベンダーのみに、アクセス権が与えられます。

選択および制御

Microsoft SpyNet にはいつでも参加または脱退、あるいはメンバーシップを変更できます。

ユーザーは、自動スキャンを有効または無効にし、スキャンの頻度および種類を変更できます。スケジュールされたスキャン中に Windows Defender が検出したソフトウェアに、どの動作を自動的に

に適用させるかについても、ユーザーが選択できます。

Windows Defender の [ツール] メニューで Microsoft SpyNet メンバーシップまたは設定を変更できます。

履歴機能

この機能の説明

この機能は、Windows Defender が検出する、ユーザーのコンピューター上のすべてのプログラムが検出された際に行われた動作の一覧を提供します。

さらに、コンピューター上で実行されているあいだに Windows Defender が監視しないプログラム (許可済みの項目) の一覧を表示できます。また、ユーザーが削除を選択するか再度実行するまで Windows Defender が実行させないプログラム (検疫済みの項目) を表示することもできます。

収集、処理、または転送される情報

Windows Defender が検出するソフトウェアの一覧、ユーザーおよびその他のユーザーの対処内容、および Windows Defender が自動的に行った対処内容は、ユーザーのコンピューターに自動的に保存されます。すべてのユーザーは Windows Defender の履歴を表示して、コンピューター上にインストールまたは実行されそうになったか、または別のユーザーが実行を許可したマルウェアやその他の望ましくない可能性のあるソフトウェアを確認できます。たとえば、新しいマルウェアの脅威について聞いた場合に、履歴をチェックして、Windows Defender がユーザーのコンピューターを感染から防いできたかどうかを確認できます。履歴機能はマイクロソフトへはデータを送信しません。

選択および制御

管理者は履歴の一覧を削除することができます。

[ページのトップへ](#)

Windows ファイルの関連付け

この機能の説明

Windows ファイルの関連付けでは、ファイルの種類と特定のプログラムを関連付けることができます。プログラムが関連付けられていないファイルを開こうとすると、Windows では、Windows ファイルの関連付けを使用してファイルに関連付けるプログラムを検索するかどうかという確認のメッセージが表示されます。この

サービスを使用するよう選択すると、ファイルの種類の特長子がマイクロソフト に送信されます。ファイル名の特長子に一般的に関連付けられているプログラムが表示されます。

収集、処理、または転送される情報

Windows ファイルの特長子の使用を選択すると、ファイル名特長子と、コンピューターの表示言語がマイクロソフト へ送信されます。ファイル名の残りの部分はマイクロソフト へは送信されません。

情報の使用

ファイル名特長子を送信すると、マイクロソフト がその特長子のファイルを開くことができると認識しているプログラムの一覧が、サービスから返されます。プログラムのダウンロードおよびインストールを選択しない限り、ファイルの種類との関連付けは変わりません。

選択および制御

プログラムが関連付けられていない種類のファイルを開こうとした場合、Windows ファイルの特長子を使用するかどうかを選択できます。サービスの使用を決定しない限り、ファイルの特長子情報がマイクロソフト に送信されることはありません。管理者には、ユーザーがこのサービスを使用できないようにするいくつかのオプションがあります。管理オプションについての詳細は、「[Windows 7 と Windows Server の使い方 : インターネットとの通信を管理する](#)」(マイクロソフト TechNet Web サイトの記事)を参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows ヘルプ

Windows オンライン ヘルプとサポート

この機能の説明

Windows オンライン ヘルプとサポートをオンにすると、インターネットに接続している場合、オンラインのヘルプ コンテンツを検索し、利用可能な最新のコンテンツを取得できます。

収集、処理、または転送される情報

Windows オンライン ヘルプとサポートを使用すると、検索クエリや、示されたヘルプ トピックに対する選択した評価やフィードバックがマイクロソフト に送信されます。Windows オンライン ヘルプとサポートでは、意図的に個人を特定できるような情報を収

集することはありません。このような情報が検索またはフィードバック ボックスに入力された場合、情報は送信されますが、マイクロソフト がお客様を特定したりお客様に連絡を取ったりするために情報を使用することはありません。

情報の使用

マイクロソフト は検索クエリに対するヘルプ トピックの表示、最も関連性の高い結果の表示、新しいコンテンツの開発、および既存コンテンツの向上のために情報を使用します。

選択および制御

Windows 7 セットアップの実行中に [推奨設定] を選択すると、Windows オンライン ヘルプとサポートが有効になります。推奨設定を選択していない場合は、Windows ヘルプとサポートをはじめて使う際に Windows オンライン ヘルプとサポートを選択する機会がユーザーに提供されます。後で選択内容を変更するには、[オプション] メニューの [設定] をクリックするか、[ヘルプ] ウィンドウの下にあるトグル メニューで [オンライン ヘルプの表示] を選択します。

ヘルプ エクスペリエンス向上プログラム

この機能の説明

ヘルプ エクスペリエンス向上プログラムは、マイクロソフト がお客様がヘルプを使用する方法についての傾向を特定し、検索結果とコンテンツの関連性を向上するために使用されます。Windows オンライン ヘルプとサポートの使用を選択した場合にのみ、ヘルプ エクスペリエンス向上プログラムに参加できます。

ヘルプ エクスペリエンス向上プログラムでは、グローバル識別子 (GUID) を生成します。GUID はコンピューター上に保存され、ユーザーのコンピューターを一意に識別するため上記の説明した情報と一緒に マイクロソフト に送信されます。GUID はランダムに生成された番号で、個人情報は含まれておらず、ユーザーを特定するためには使用されません。この GUID は、マイクロソフト エラー報告や Windows カスタマー エクスペリエンス向上プログラムで作成された GUID とは別のものです。GUID を通じて、受信する問題が広がっている程度、およびその優先順位の付け方を判断します。たとえば、GUID によってマイクロソフト は、ある問題について、一人の顧客が 100 回経験しているか、100 人の顧客がそれぞれ 1 回経験しているかを区別することができます。

収集、処理、または転送される情報

ヘルプ エクスペリエンス向上プログラムは、コンピューターが実

行している Windows のバージョンや、Windows ヘルプとサポートで検索する時に入力するクエリを含めた Windows ヘルプとサポートの使用方法などの情報を マイクロソフト に送信します。

情報の使用

収集されたデータは、マイクロソフト が提供するコンテンツの品質と、検索結果の関連性を向上させるため、傾向と使用パターンを識別するために使用されます。マイクロソフト は、お客様に連絡したりお客様を特定したりするためにこの情報を使用することはありません。

選択および制御

Windows 7 セットアップ時に [推奨設定] を選択すると、[ヘルプ エクスペリエンス向上プログラム] に参加することになります。[オプション] メニューの [設定] をクリックするか、[ヘルプ] ウィンドウの下にあるトグル メニューで [オンライン ヘルプの表示] を選択して、参加設定を変更できます。トグル メニューから [オンライン ヘルプの表示] を選択しただけでは、自動的にヘルプ エクスペリエンス向上プログラムに参加できません。登録は設定メニューから行う必要があります。登録していない場合でも、フィードバックの送信後に参加する機会があります。

[ページのトップへ](#)

ReadyBoost

この機能の説明

ReadyBoost は、USB フラッシュ ドライブやセキュア デジタル (SD) カードなどの一部のリムーバブル メディア デバイス上の記憶域を使用して、コンピューターの応答性を向上させることができます。ReadyBoost は、リムーバブル メディア デバイスへ頻繁にアクセスされるデータをコピーし、そこで Windows がそのデータにアクセスします。

収集、処理、または転送される情報

ReadyBoost がリムーバブル メディア デバイスで有効にされると、ReadyBoost はよく使われるデータとファイルの暗号化バージョンを、デバイス上の空き領域にコピーします。

情報の使用

リムーバブル メディア上に保存されたデータは、コンピューターの応答性の向上のために使用されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。

選択および制御

コンピューターに ReadyBoost 対応メディア デバイスを追加すると、デバイスで ReadyBoost を有効化するというオプションが表示される場合があります。デバイスのプロパティ ウィンドウから ReadyBoost を有効または無効にできます。[スタート] メニューをクリックし、[コンピューター] を選択します。[コンピューター] ウィンドウで、デバイスを右クリックし、[プロパティ] をクリックしてから、[**ReadyBoost**] タブをクリックします。

[ページのトップへ](#)

Windows リモート アシスタンス

この機能の説明

Windows リモート アシスタンスを使用すると、近くにいない人でも、お客様のコンピューターに招待して接続し、コンピューターの問題について支援してもらうことができます。接続すると、相手は接続先のコンピューター画面を表示できます。お客様の許可によって、別のユーザーが自分のマウスおよびキーボードを使用してお客様のコンピューターを制御し、問題を解決する方法を示すこともできます。

収集、処理、または転送される情報

Windows リモート アシスタンスは、インターネットまたはローカル ネットワークを介して、2 台のコンピューター間に暗号化された接続を作成します。Windows リモート アシスタンスを使用して他のユーザーのコンピューターに接続した人は、その接続先ユーザーのデスクトップおよび開いているドキュメント（プライベートな可視情報を含める）を見ることができます。さらに、支援を受けるユーザーが他の人に、その人のマウスまたはキーボードを使用して、支援を受けるユーザーのコンピューターを制御することを許可した場合、その人はファイルの削除、設定の変更などの操作を実行できます。接続が確立されると、Windows リモート アシスタンスはユーザー名、コンピューター名、およびユーザー アカウントの画像（[スタート] メニューに表示される画像）を含めた連絡先情報を交換します。セッション ログ ファイルには、すべてのリモート アシスタンス接続の記録が保持されます。

情報の使用

この情報は、暗号化された接続を確立し、他のユーザーに対してお客様のデスクトップへのアクセスを許可するために使用されます。マイクロソフト へ情報が送信されることはありません。

選択および制御

自分のコンピューターへの接続を誰かに許可する前に、別の人に見られたくない、開いているプログラムまたはドキュメントを閉じてください。その人が自分のコンピューター上で見ているものや実行していることについて不快に感じた場合は、Esc キーを押してセッションを終了します。セッションのログと連絡先の交換を無効化することができます。Windows リモート アシスタンスについての詳細は、「Windows ヘルプとサポート」の「Windows リモート アシスタンス：よく寄せられる質問」を参照してください。

[ページのトップへ](#)

Windows 音声認識

この機能の説明

Windows 音声認識は、Windows 内で、音声認識を提供します。使用するよう選択した全てのプログラムに対しては、使用可能です。Windows 音声認識は、音声やよく使う単語などを含め、言語の使用方法を学習することで精度を高めます。

収集、処理、または転送される情報

Windows 音声認識では、コンピューター上に単語の一覧と発音が保存されます。音声辞書を使用してこの一覧に単語や発音が追加され、Windows 音声認識を使用することによって単語の読み上げや修正が行われます。

Windows 音声認識ドキュメント見直し機能が有効化されると、コンピューター上および、(Windows 検索インデックスの場所に含まれる) 接続されているファイル共有にある、マイクロソフト Office Word ドキュメント (ファイル名拡張子が .doc または .docx のもの) や電子メール (削除済みアイテムや迷惑メール以外の電子メールフォルダーにあるもの) から、テキストが収集され、1~3 語のフラグメントで保存されます。1 語のフラグメントは、カスタム辞書に追加した単語のみとなります。2 語または 3 語のフラグメントには、標準辞書にある語句のみが含まれます。

収集された情報は全て、コンピューター上の個人音声プロファイル内に保存されます。音声プロファイルは各ユーザーごとに保存され、ユーザーは、コンピューター上の他のユーザーのプロファイルにアクセスすることはできません。ただし、管理者はコンピ

ユーザー上のすべてのプロファイルへアクセスできます。Windows 音声認識によるメッセージが表示され、送信するよう選択した場合を除いて、プロファイル情報はマイクロソフトには送信されません。送信前にデータを見直すことができます。このデータの送信を選択すると、音声の特徴に適用させるための音響適応データも送信されます。

トレーニング セッションを完了すると、Windows 音声認識では、音声プロファイル データをマイクロソフトへ送信するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。送信前にデータを見直すことができます。このデータには、トレーニング セッションでのユーザーの声の録音と、上記のような個人音声プロファイルからのその他のデータなどが含まれる場合があります。

情報の使用

Windows 音声認識は、音声プロファイルの単語を使用して、音声をテキストに変換します。マイクロソフトは、当社の製品やサービスの向上に個人の音声プロファイル データを使用します。

選択および制御

Windows 音声認識を実行するかどうかを選択できます。Windows 音声認識を実行している場合は、既定ではドキュメント レビューが有効になっています。Windows 音声認識をはじめて実行する際に、ドキュメント レビュー設定を変更する機会があります。コントロール パネルの [音声認識] に移動し、[高度な音声オプション] をクリックして、ドキュメント レビュー設定や個人音声プロファイル (およびほとんどのドキュメント レビュー データ) の削除を行うことができます。また、音声辞書の [既存の単語を変更する] オプションを使用して、音声プロファイルに追加した単語を削除することもできます。しかし、個人音声プロファイルを削除しても、音声辞書から個人の音声プロファイルに追加した単語は削除されません。詳細については、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

Windows 検索インデックスに含まれる場所を修正することで、ドキュメント レビューによって語句が収集される場所を制御できます。Windows 検索インデックス内に含まれる場所を表示または修正するには、コントロール パネルの [インデックスのオプション] に移動します。

すべてのトレーニング セッションの最後には、トレーニング データとその他のプロファイル データをマイクロソフトへ送信する

かどうかを選択できます。Windows 音声認識の起動時に [マイク] ボタンを右クリックし、[音声認識の品質向上に協力する] をクリックしてデータを送信することもできます。どちらの場合でも、送信前にすべてのデータ ファイルを表示し、送信しないことを選択することができます。

[ページのトップへ](#)

Windows タイム サービス

この機能の説明

Windows タイム サービスは、コンピューターの時刻を、ネットワーク上のサーバーの時刻と自動的に同期します。

収集、処理、または転送される情報

このサービスは、業界標準のネットワーク タイム プロトコルを使用して、インターネットまたはローカル ネットワークでタイム サーバーと接続します。既定では、このサービスは週に一度 time.windows.com と同期化するようになっています。標準コンピューター情報以外の情報はタイム サーバーには送信されません。

情報の使用

情報は、Windows タイム サービスによって、ローカル コンピューターの時刻を自動的に同期化するために使用されます。

選択および制御

Windows タイム サービスは既定ではオンになっています。コントロール パネルの [データと時刻] で [インターネット時刻] タブを選択し、[設定の変更] をクリックして、この機能をオフにしたり、お好きなタイム ソースに変更できます。Windows タイム サービスをオフにしてもプログラムや他のサービスに直接的な影響はありませんが、信頼のおけるタイム ソースを設定していないと、ローカルのコンピューターの時刻が、ネットワークやインターネット上の他のコンピューターとずれる場合があります。ネットワーク接続したコンピューターの間に着しい時間のずれがある場合、時間に依存するプログラムやサービスが失敗したり、正常に動作しなくなる場合があります。

[ページのトップへ](#)

Windows トラブルシューティング

この機能の説明

Windows トラブルシューティングを使用すると、コンピューターの一般的な問題を診断および修復できるようになります。オンライン設定が有効になっている場合、Windows トラブルシューティングは特定の問題に対するトラブルシューティング パックを検索し、ダウンロードできます。Windows トラブルシューティングはトラブルシューティング パックを検索する際、コンピューターに提供するトラブルシューティング パックを決定するために、コンピューターやオペレーティング システムについての情報を含めたシステム情報を マイクロソフト へ送信します。トラブルシューティング パックを実行して問題を解決しようとする、Windows トラブルシューティングは、問題を解決するためにトラブルシューティング結果および取られた措置を保持します。これらの結果は削除するか、サポートの専門家に追加のサポートを求めるために送信することができます。トラブルシューティング パックで問題が解決されない場合、Windows トラブルシューティングはオンラインの Windows ヘルプと Windows コミュニティで問題を検索するのに役立ちます。

収集、処理、または転送される情報

オンライン設定が有効化されている場合、Windows トラブルシューティングは マイクロソフト からコンピューター問題の診断と修正に役立つトラブルシューティング パックの一覧を検索し、ダウンロードする場合があります。コンピューター上にないトラブルシューティング パックを実行するよう選択すると、マイクロソフト はユーザーのコンピューターにトラブルシューティング パックをダウンロードします。トラブルシューティング パックの実行後、コンピューターに結果が保存されます。これらの結果には、ユーザー エイリアスやデバイス名など、個人を特定できる情報が含まれる場合があります。Windows トラブルシューティングは、オンラインの Windows ヘルプと Windows コミュニティで問題の解決策を探すのに役立ちます。解決策を探すのに役立つよう、問題に関連したキーワードが マイクロソフト へ送信されます。例えば、プリンターが正常に動作せず、ヘルプを探している場合、「プリンター」、「印刷」、および「印刷する」などの単語が マイクロソフト に送信されます。

情報の使用

Windows トラブルシューティングの使用によって マイクロソフト が収集した情報は、ユーザーが遭遇する問題の解決に役立てるために使用されます。

選択および制御

セットアップ時に [推奨設定] を選択した場合、既定では Windows トラブルシューティングはオンラインでトラブルシューティング パックを検索するようになっています。これらの設定の変更は、コントロール パネルの [トラブルシューティング] で行います。[設定の変更] を選択して [**Windows** オンライン トラブルシューティング サービスから入手可能なトラブルシューティング ツールをユーザーが参照できるようにする] チェック ボックスをオフにします。[**Windows** オンライン トラブルシューティング サービスから最新のトラブルシューティング ツールを取得する] チェック ボックスをオフにすることで、オンライン検索を無効化することもできます。トラブルシューティング結果を削除するには、[履歴の表示] をクリックし、結果を選択してから、[削除] を参照してください。

[ページのトップへ](#)

最新情報

Surface Laptop 4

Surface Laptop Go

Surface Go 2

Surface Pro X

Surface Book 3

Microsoft 365

Windows 10 アプリ

HoloLens 2

Microsoft Store

アカウント プロファイル

ダウンロード センター

Microsoft Store サポート

返品・返金

ご注文履歴

Microsoft Store をお選びいただく理由

教育

教育機関向けの Microsoft 製品

学生向け Office

Office 365 の教育機関向け製品

教育機関向けの Microsoft Azure

エンタープライズ

Azure

Microsoft AppSource

開発者

Microsoft Visual Studio

Windows デベロッパー センター

会社

採用情報

会社のニュース

自動車	デベロッパー センター	マイクロソフトにおけるプライバシー
政府・公共機関	Microsoft 開発者プログラム	投資家
医療機関	チャンネル 9	アクセシビリティ
製造	Office デベロッパー センター	セキュリティ
ファイナンス サービス		
小売		